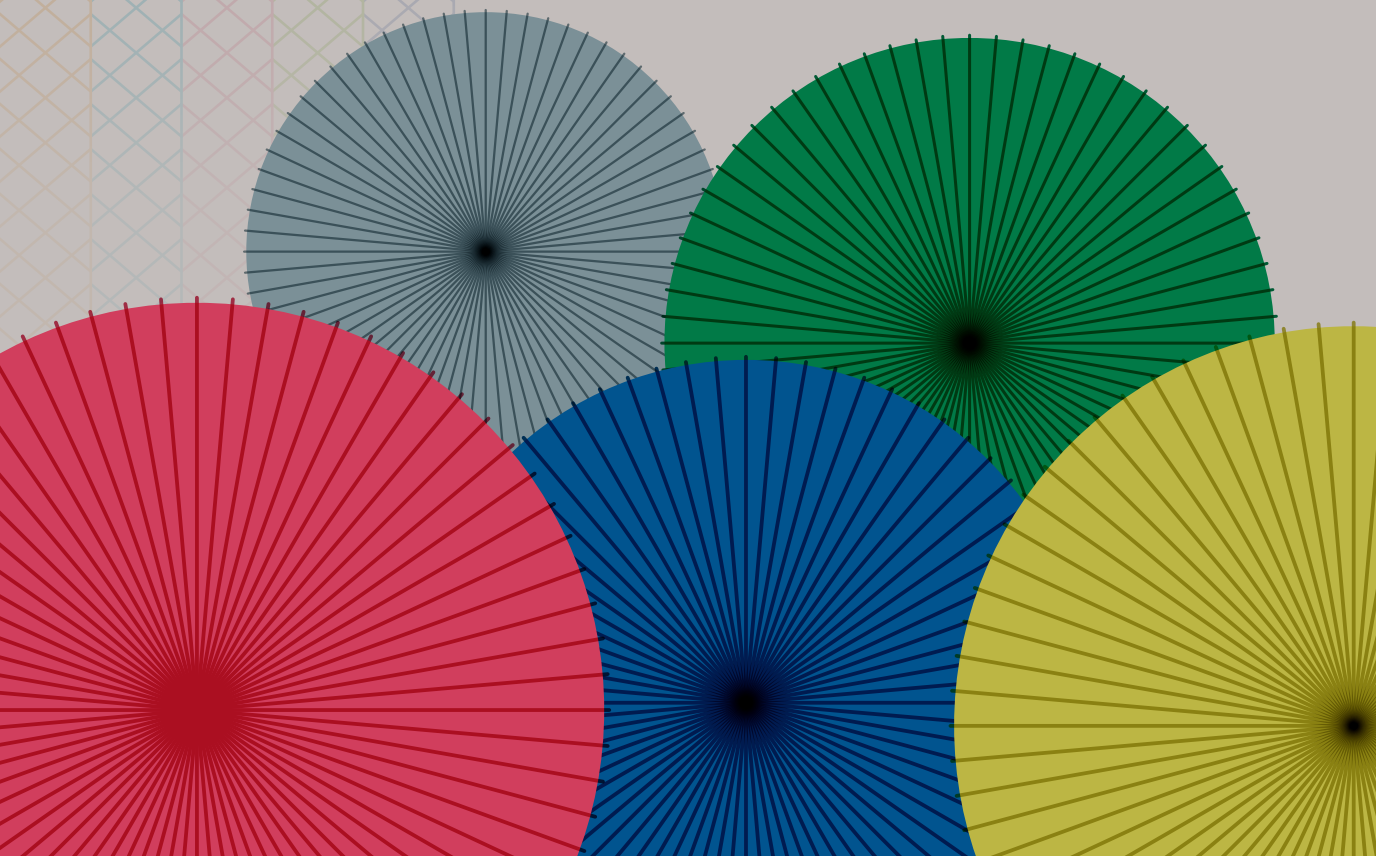
加納のまち

KANOU no MACHI book



加納マップ　まちあるきのお薦めルート

出発は岐阜駅南口が便利です

オーキッドパーク

村上記念病院

JR 岐阜駅

加納めぐりバス

加納めぐりバスとレンタサイクル

岐阜駅南口バス停からは加納めぐりバスが加納を回っています。（時刻表はネットから）
岐阜バスの路線もあります。岐阜市のレンタサイクルも利用できます。（利用方法はネットから）

市レンタサイクルポート

加納栄町通り

中山道

10

加納新本町

中山道をたどるコース

4

1

番号は33-34ページの「ちょっと見どころ」より

加納めぐりバス

加納上本町

陽南中学校

岐阜西通り

加納西小学校
加納西公民館

8

長刀堀です

中山道沿いに
案内板があります

MEGA
ドン・キホーテ
UNY 岐阜店

本丸跡の公園です

加納 かめ姫

加納高校

7

中山道をたどるコース

岐阜駅南口 ► 栄町通り ► 中山道を東へ ► 本陣跡 ► 加納中通り ► 当分本陣跡 ► 旧加納町役場跡地 ► 大手門跡を北へ ► 御鮨街道との道標を東へ ► 新町・柳町 ► 上本町通りを横断 ► 東木戸 ► 岐阜東通りを横断 ► 道標を南へ ► 八幡神社前 ► 茶所・ぶたれ坊 ► 踏み切りを渡って細畑（ほそばた）

城下町をめぐるコース

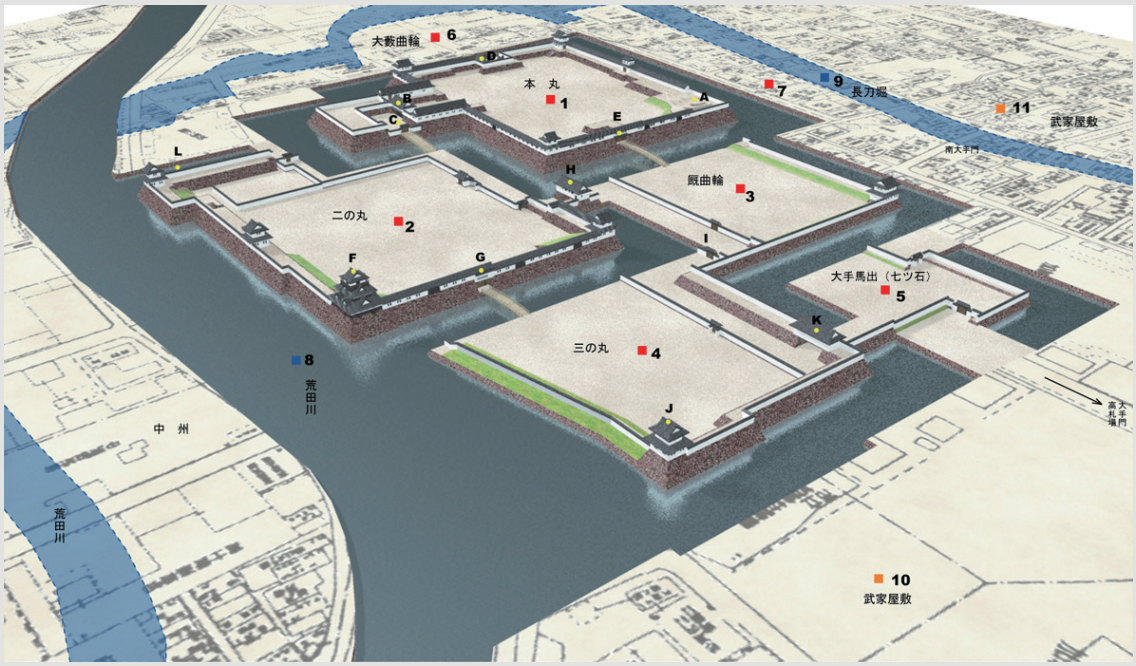
岐阜駅南口 ► 清水川・清水緑地へ ► 加納中通りを渡る ► 水薬師前 ► 大手門跡 ► 岐阜大附属小・中学校前 ► 長刀堀 ► 加納公園（本丸跡）の中を縦断する ► 南門を出る ► 本丸の南東の堀を東から北へ ► 気象台前（二の丸） ► 加納小学校グランドの二の丸石垣 ► 思い出の森（三の丸） ► 加納幼稚園東 ► 中山道へ

加納の町の歴史はここから

家康の長女 亀姫と 長篠の戦いで活躍した 信昌
加納城と加納宿

亀姫画像（光国寺蔵）

奥平信昌画像（盛徳寺蔵）



加納城を復元した３Ｄグラフィックスで東北上空から見たもの。
荒田川から見るとまさに水に浮かぶ城である。（岐阜市教育委員会）

戸田氏時代の加納城下絵図（岐阜市歴史博物館蔵）寛文11（1671）年３月。

江戸時代の加納は、城下町と宿場町を兼ねていた町である。武家屋敷は加納城の西一帯と北部に広がり、中山道の加納宿を形成している町家は、東西に形成されている。このような町は中山道では高崎宿しか見られないが、東海道などほかの街道ではよくみられる。

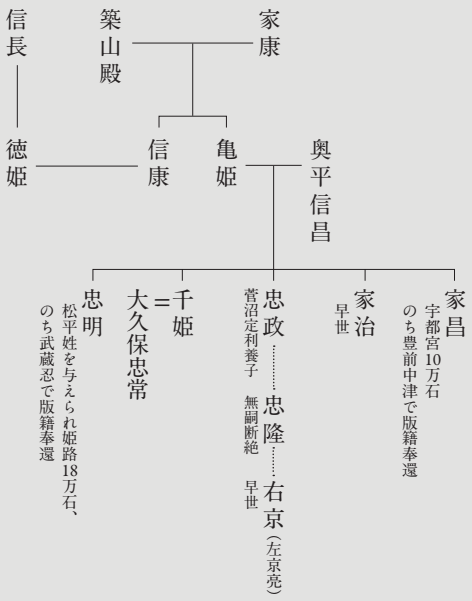
加納城の建設にあたって、石垣などの材料を、関ヶ原の合戦で落城した岐阜城から持ってきたといわれる。岐阜城の天守閣も「御三階」として二の丸の北東隅におかれた。他にも信長居館の建物は、大垣市赤坂の「お茶屋屋敷」も移設されて、家康の休憩場所として使われたという。

（片野記念館蔵）

加納城

慶長5(1600)年11月、徳川家康は関ヶ原の帰途、西国諸国の脅威、交通の要衛を主な理由として加納築城を奉行本多忠勝に命じ、北陸・東山の諸大名がその任にあたった。家康が築城を命じた例は全国的にも数少ない。

翌6年、竣工をまたず初代城主に家康の長女亀姫の夫、奥平信昌(1555〜1615)を10万石で入封させた。慶長15(1610)年、名古屋築城と共に西方に対する防衛上の価値は減少した。



奥平氏	
天正18 1590	上野小幡 3万石
慶長6 1601	美濃加納 10万石
寛永9 1632	除封

大久保氏	
慶長6 1601	武蔵騎西 2万石
寛永9 1632	美濃加納 5万石
寛永16 1639	播磨明石 7万石
慶安2 1649	肥前唐津 8.3万石
延宝6 1678	下総佐倉 9.3万石
貞享3 1686	相模小田原 10.3万石
元禄7 1694	11.3万石
元禄11 1698	10.7万石
明治2 1869	7.5万石

戸田氏	
天正18 1590	武蔵東方 1万石
慶長6 1601	上野白井 2万石
慶長7 1602	下総古河 2万石
慶長17 1612	常陸笠間 3万石
元和2 1616	上野高崎 2万石
元和3 1617	信濃松本 7万石
寛永10 1633	播磨明石 7万石
寛永16 1639	美濃加納 7万石
正徳1 1711	山城　淀 6万石
享保2 1717	志摩鳥羽 6万石
享保10 1725	信濃松本 6万石

安藤氏	
慶長17 1612	下総小見川 1万石
元和5 1619	上野高崎 5.5万石
元禄8 1695	備中松山 6.5万石
正徳1 1711	美濃加納 6.5万石
宝暦6 1756	陸奥磐城平 5万石
享和3 1802	6.8万石
文久2 1862	4.8万石

永井氏	
万治2 1659	河内　渚 2万石 淀、永井より分家
貞享4 1687	下総烏山 3万石
元禄14 1701	播磨赤穂 3.3万石
宝永3 1706	信濃飯山 3.3万石
正徳1 1711	武蔵岩槻 3.2万石
宝暦6 1756	美濃加納 3.2万石

加納駅
N
清水川
新町
町屋
荒町
本町
中山道
岐阜市加納支所
大手門
茶所駅
城内武家屋敷
岐大附属小中学校
荒田川
岐阜ろう学校
加納小学校
長刀堀
武家屋敷
三丸
厩曲輪
気象台
二丸
本丸
0
100
200
加納中学校

作図：松尾一

歴代加納藩主

◆三代で断絶　奥平氏　33年間

奥平氏は貞昌の時、天正3(1575)年の長篠の戦いで大功をたて、織田信長より「信」を与えられ信昌に改めた。翌年、徳川家康の長女亀姫と婚姻、家康の関東入封のおり、小幡(群馬県)で3万石の大名となった。

関ヶ原の戦いの直後、京都所司代を務め、ついで10万石で加納に入封した。加納藩奥平氏は、信昌の孫忠隆の時、無嗣断絶しているが、信昌の子・家昌は、宇都宮(栃木県)10万石、のち中津(大分県)に移封、また同じく、信昌の子・忠明は松平姓を与えられ姫路(兵庫県)18万石、のち忍(埼玉県)に移封、明治2(1869)年の版籍奉還まで、それぞれの地に続いた。

◆数年で転封　大久保氏　8年間

三代で断絶した加納奥平氏に代わって加納藩主となったのは、大久保長安事件で改易となった大久保忠隣の孫にあたる大久保忠職で、騎西(埼玉県)2万石から加納5万石として入封した。大久保忠職の母は奥平信昌の娘千姫、妻は松平(奥平)忠明の娘梅姫と、奥平氏と縁の深い関係であったが、寛永16年、7万石に加増され明石に転封となった。

◆松姫のおかげ　戸田氏　73年間

戸田氏は家康の娘松姫を嫁にした家系で、徳川氏から松平の姓と葵の紋を与えられている。7万石で入封した戸田光重は領地の桑山(本巣市)に智勝院を建立し松姫の霊を安置している。寛文8(1668)年、2人の弟に文殊(本巣市)、北方(本巣郡北方町)に、それぞれ5000石分与され旗本となった。

戸田氏が淀に転封後、加納をしのんだ家臣によって「ゆききの松」の和歌が生まれている。

◆幽閉された殿様　安藤氏　49年間

戸田氏に代わって入封してきたのは、寺社奉行、大坂城代、老中を務めた安藤信友である。信友から家督を継いだ信尹(のぶただ)は、飲酒遊興の毎日だったといい、さらに、このころ加納藩は御用金の賦課があり農民の強訴もあった。

そこで家老など一部の家臣によって信尹は1年あまり幽閉されてしまった。これを知った幕府は信尹を隠居させ、1万5000石減封し、平(福島県いわき市)へ移封させた。のち、美濃領で加増され切通(岐阜市長森)に陣屋を置いた。

◆花咲く和傘　永井氏　114年間

安藤氏に代わって入封してきたのは永井氏である。石高3万2000石のうち、1万2000石は摂津・河内(いずれも大阪府)にあり佐太(守口市)に陣屋を置き支配していた。

永井氏加納藩は、和傘産業が盛んだった時代であった。また藩財政救済のため傘札といわれた藩札を発行していた。

最後の藩主永井尚服(なおこと)は、明治5(1872)年、東京へ移住した。

加納草子　平成25年文月号(第1号)

中山道加納宿

加納宿　新町

JR岐阜駅の南側に位置する加納地区は、近世の頃から中山道の宿場町として、また加納藩の城下町として発展した地域である。昭和20(1945)年7月の戦災で、加納の東北部の新町、柳町、安良町、東広江、南広江あたりを除いて、ほとんどが焼失したが、近年、地域の各種団体や行政との協働によって、中山道の地道風舗装や案内板などから、宿場町の面影を偲べるようになってきた。

◆中山道

五街道の一つである中山道は、江戸日本橋を起点として、現在の埼玉県、群馬県、長野県、岐阜県、滋賀県を通り草津宿で東海道と合流し、京都まで至り、宿場は69宿あった。

慶長6(1601)年、東海道に伝馬制度が設けられたのに始まり、順次、宿駅が設置され、中山道は東海道とともに江戸と京都を結ぶ街道として重要視されていた。

中山道は、大名のほか、日光例幣使、お茶壺道中、皇女の嫁入り行列が通った。特に嫁入り行列は、大名行列や庶民の通行が多く、また七里の渡しを始め幾つかの河川の渡しなど難所の多い東海道を避けて、比較的順調に通行できる中山道を利用する場合が多かったという。

◆城下町でもあった加納宿

慶長6(1601)年、徳川家康が新たに加納城を築城、奥平氏を封じた。この結果、政治上軍事上の要地であったのみならず、岐阜、名古屋、伊勢路あるいは郡上、飛騨方面との交通の要となった。美濃16宿といわれた当時の宿場の中でも唯一の城下町であった加納宿は、慶長・元和の頃から本陣、脇本陣、町年寄、問屋場などの諸役を置くなどして徐々に体勢を整えていった。宿場内の沿道地域は比較的狭かったが、家屋は隙間なく並び、街道は整然としていた。さらには、加納の発展にともない清水町、本町九丁目などに商家が建ち並び、町方へ編入されていった。貞享2(1685)年の人口は約4000人(武家を除く)であった。

また寛永11(1634)年、加納藩大久保氏5万石の時に、加納・岐阜・鏡島という中山道のルートを、岐阜を経由せず直接、加納・鏡島というルートに変更している。

加納草子　平成25年霜月号（第2号）

加納マップ　中山道加納宿

本荘・鏡島
河渡宿方面へ

◆往来の松

三里菊地神社の境内に元禄～宝暦年代の見事な老大木があり時の城主松平光永は「往来＝ゆききの松」と名付けた。この松にまつわる和歌が多くの文人等に詠まれた文集は、脇本陣森家に伝わる。境内には「往来の松古跡の碑」が建つ。

◆西番所

本町８丁目と９丁目の境に加納西番所があった。この北側に文久元（1861）年の石仏があったが、近年、新仏につくりかえられた。石仏には道しるべが刻まれていた。

◆和宮歌碑

文久元（1861）年、本陣松波家に皇女和宮が宿泊された。和宮の歌碑が本陣跡に建つ。

遠ざかる 都としれば旅衣
一夜の宿も たちうかりけれ

脇本陣　西問屋　脇本陣　本陣

コースの案内

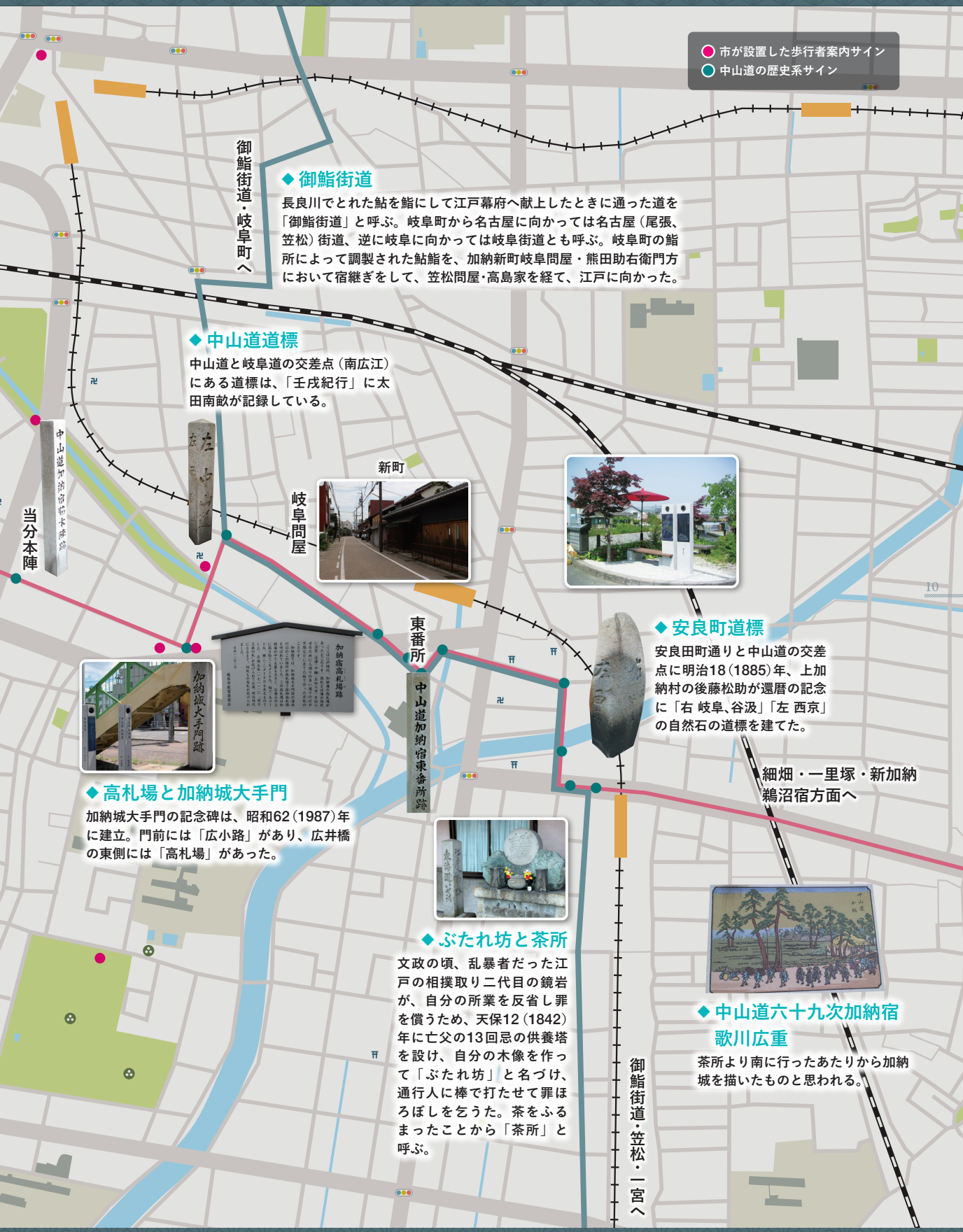
加納宿の中山道の東の出入口は、現在の名鉄本線茶所駅から八幡町に入る。すぐに笠松とのＴ型分岐点で道標とぶたれ坊の碑がある。ここが名古屋方面に向かう尾張街道（名古屋街道）または岐阜街道という街道で四ツ家（愛知県稲沢市）で美濃路と合流している。

中山道はＴ型分岐点を過ぎすぐ北上し荒田川に架る橋を渡る。安良町に入るがかつては「荒町」といっていた。この橋を渡ると、まもなく自然石でできた安良町の道標があり、ここを曲がり広い道路を渡ると小さな橋がある。かつてここ柳町に加納宿東番所が置かれ、木戸によって夜間は閉められていた。

ここを南下しすぐ西に折れ広い道を渡ると新町となり、名鉄本線踏切との手前、南広江の道標がある交差点に出る。ここから北に向かうと岐阜町に至る。この道を北上してJR高架下までが加納宿で、加納宿北番所が置かれ、木戸があった。

中山道は、南広江の道標から南下、清水川に架かる橋を渡る。このあたりは大手町というが、かつて広小路があり七軒町といっており、橋のたもとに高札場があった。歩道橋がある広い道に出る手前から西に折れ本町に入るが、かつてこのあたりは魚町といって魚介類や野菜、乾物を販売する店が並んでいた。

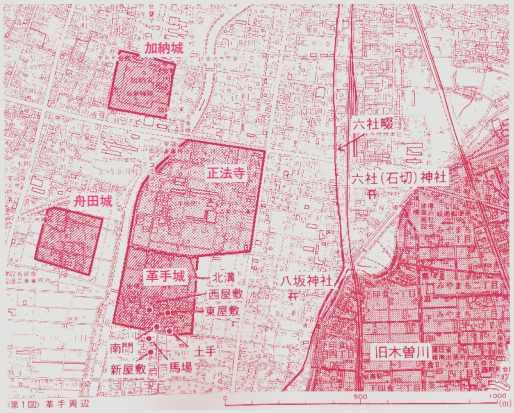
本町の通りは本陣、脇本陣などが見られた。中山道は加納栄町通りを横断し、本町8丁目と9丁目の境にかつて加納宿西番所が置かれ、木戸があった。ここを西に進むと広い道に出る。ここが加納宿の西の出口であった。


市が設置した歩行者案内サイン
中山道の歴史系サイン
御鮨街道・岐阜町へ
◆ 御鮨街道
長良川でとれた鮎を鮨にして江戸幕府へ献上したときに通った道を「御鮨街道」と呼ぶ。岐阜町から名古屋に向かっては名古屋（尾張、笠松）街道、逆に岐阜に向かっては岐阜街道とも呼ぶ。岐阜町の鮨所によって調製された鮎鮨を、加納新町岐阜問屋・熊田助右衛門方において宿継ぎをして、笠松問屋・高島家を経て、江戸に向かった。
◆ 中山道道標
中山道と岐阜道の交差点（南広江）にある道標は、「壬戌紀行」に太田南畝が記録している。
当分本陣
新町
岐阜問屋
東番所
中山道加納宿東番所跡
◆ 安良町道標
安良田町通りと中山道の交差点に明治18（1885）年、上加納村の後藤松助が還暦の記念に「右 岐阜、谷汲」「左 西京」の自然石の道標を建てた。
細畑・一里塚・新加納
鵜沼宿方面へ
◆ 高札場と加納城大手門
加納城大手門の記念碑は、昭和62（1987）年に建立。門前には「広小路」があり、広井橋の東側には「高札場」があった。
◆ ぶたれ坊と茶所
文政の頃、乱暴者だった江戸の相撲取り二代目の鏡岩が、自分の所業を反省し罪を償うため、天保12（1842）年に亡父の13回忌の供養塔を設け、自分の木像を作って「ぶたれ坊」と名づけ、通行人に棒で打たせて罪ほろぼしを乞うた。茶をふるまったことから「茶所」と呼ぶ。
◆ 中山道六十九次加納宿
歌川広重
茶所より南に行ったあたりから加納城を描いたものと思われる。
御鮨街道・笠松・一宮へ

加納の年表

1445年	文安 2年	… 美濃国守護代斎藤利永が（中世）加納城を築城する。
1567年	永禄 10年	… 織田信長が斎藤龍興を追放し稲葉山城を占拠。
1600年	慶長 5年	… 関ヶ原の合戦の前哨戦で岐阜城落城。
1601年	6年	… 奥平信昌、加納を拝領する（10万石）。正室の亀姫は家康の長女。
1602年	7年	… 加納城築城開始。信昌が隠居し、三男忠政城主となる。
1632年	寛永 9年	… 忠隆没し奥平氏断絶。大久保忠職が城主となる。
1634年	14年	… 加納宿創設。
1639年	16年	… 大久保忠職は明石へ転じ、戸田（松平）光重が入城（7万石）。
1711年	正徳 1年	… 戸田光熙が山城淀へ移り、備中高松から安藤信友が転ずる。
1756年	宝暦 6年	… 安藤信成、磐城平藩へ転封。武蔵岩槻から永井直陳が転ずる（3.2万石）。
1798年	寛政 10年	… 大洪水により加納城下大被害、加納藩農民一揆。
1802年	享和 2年	… 二の丸御殿新築、御城高塀普請。
1826年	文政 9年	… 加納藩、宮田・森家に傘問屋を申し付ける。
1869年	明治 2年	… 永井肥前守尚服、版籍奉還。
1871年	5年	… 加納藩を廃し、加納県を置く（同年廃される）。
1872年	6年	… 城門等が売却、取り壊される。
1887年	20年	… 東海道線、加納停車場。
1889年	22年	… 岐阜市市制施行に伴って、上加納村の街道沿いを編入。
1897年	30年	… 加納東町、加納西町、下加納村が合併して、加納町となる。
1899年	32年	… 岐阜県師範学校が移転（1911年に岐阜県女子師範学校開設、1934年岐阜市長良に移転）。
1903年	36年	… 上加納村が岐阜市に編入される。
1909年	42年	… 岐阜県傘協同組合設立。
1917年	大正 6年	… 岐阜測候所移転。
1926年	昭和 1年	… 加納町の新庁舎が落成。
1928年	3年	… 岐阜第二中学校設立（現・加納高校）。
1939年	14年	… 加納城本丸、陸軍第51航空師団司令部となる。
1940年	15年	… 加納町が岐阜市に合併。
1945年	20年	… 岐阜空襲により、新町など一部を除いて消失。
1950年	25年	… 和傘生産の最盛期、その後は衰退。
1954年	29年	… 加納城本丸、自衛隊駐屯。
1975年	50年	… 加納城本丸から自衛隊が移転する。
1979年	54年	… 中山道加納宿文化保存会設立。
1983年	58年	… 加納城本丸跡が国の史跡に指定される。
2004年	平成 16年	… 加納まちづくり会設立。
2005年	17年	… 旧加納町役場が国の有形登録文化財に指定を受ける。
2016年	28年	… 旧加納町役場、耐震性の問題があり解体される。
2020年	令和 2年	… 中山道加納宿まちづくり交流センター完成。

中世の加納と川手



（第1図）革手周辺

金華山麓から西に長良川の緩やかな扇状地が広がり、岐阜市の中心市街地はその南側（左岸）の上にあります。

南東をみると、今は岐阜市と岐南町の間を流れる境川（古い木曽川の流路）があり、天正14（1586）年の大洪水で、南にある現在の本流に移動しました。境川の西側の自然堤防のところに、室町時代の土岐氏の居館と正法寺がありました。

加納の南、茜部で発掘された弥生時代の遺跡によって、この地域は古くから開けていたことが分かります。

律令時代、碁盤の目状にした条里制で農地を整備しましたが、加納地域もその範囲になりました。茜部のあたりには茜部荘という東大寺の荘園があり、その北部を開墾して農地となりました。新たに荘園に追加されたから、この農地のことを加納というようになったので、これが今日の「加納」です。

中世、川手には美濃守護の土岐頼康が根拠とした革手城があり、革手城の北には広大な土岐氏の氏寺、正法寺がありました。また荒田川の北には守護代斎藤氏の加納城があり、荒田川の南側に当初は土岐氏の別邸といわれる舟田城もありました。正法寺は現在の済美高校あたり一帯、革手城はその南あたり、加納城は現在の加納本丸跡あたり、舟田城は加納中通りと荒田川の橋の南西あたりにあったといいます。

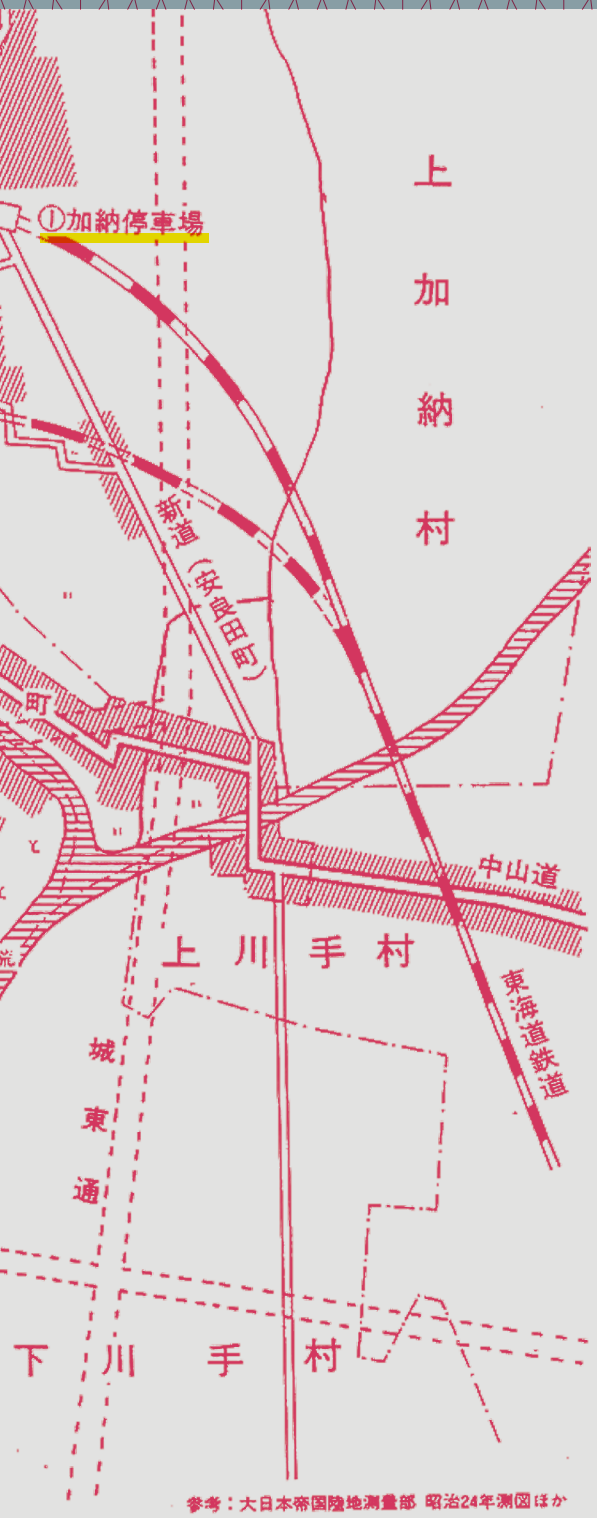
美濃守護土岐氏は、一時、美濃をはじめ尾張、伊勢三国の守護を兼ねており、革手は、都より貴族や文化人も度々訪れており文化の薫りも高く、京都についで鎌倉、周防山口と並ぶような賑わいを見せていたといいます。つまり日本三大都市といった感じかもしれません。

しかし、舟田合戦とよばれる土岐氏の同族争いによって土岐氏の勢力も減退していきました。この時、革手城、加納城、舟田城が焼失しています。土岐氏はその後、長良川扇状地の北の旧河道の一つの古々川にそった鷺山、さらに上流側の長良、そこでも洪水に遭って、北の大桑（高富、現在は山県市）に居館を移しました。そして最後の美濃守護土岐頼芸が、斎藤道三によって美濃から追放され、土岐氏の時代が終焉したのです。その後、斎藤道三の時代に金華山麓の井ノ口に移し、さらに道三の娘の濃姫を受けた織田信長が、斎藤龍興を破って入り、岐阜と名前を改めます。そして加納や川手は、小さな集落となっていったのです。

上の地図と図は、革手復元 土山公仁（所収 岐阜市歴史博物館「土岐氏の時代」1994）より

明治の加納

鉄道が開通したころ



参考：大日本帝国陸地測量部 昭治24年測図ほか

作図：松尾一

明治20（1887）年1月21日、大垣・加納間に鉄道が開通しました。名鉄各務原線安良田町踏切あたりに①「加納停車場」があったといわれています。

翌21年3月、岐阜町の発展にともない、名称を②「岐阜停車場」に改め、名鉄各務原線名鉄岐阜駅の西あたりに移転し、さらに大正2（1913）年7月③現在地に移転しました。

この鉄道は、国が東京と京都大阪を結ぶ幹線として計画し、中山道にそって西から加納へと敷設されたもので、さらに東へのびる予定でした。

しかし、もうひとつの幹線、東海道にそって計画された東海道鉄道は、名古屋・桑名間の揖斐・長良・木曽川あたりの地盤が軟弱で当時の技術では敷設がむりなことがわかり、名古屋から中山道の加納へとルートが変更されました。加納から西も「東海道鉄道」となり、新橋・神戸間の全線が開通したのは、明治22（1889）年7月1日（岐阜市制施行日）のことでした。

さて、このころの加納は、江戸時代の城下町、宿場町としての機能を完全に失い、時代に取り残されたようでした。その上、士族と町方といわれた平民との身分の違いの理由でしょうか、東加納町、西加納町と分かれ、その回りを囲むように村方である下加納村がありました。

東加納町は、町屋といわれた場所で商人や職人が住んでいましたが「人馬の行旅頓に絶え……」（加納町史）と町はさびれていたようです。

西加納町は、武家屋敷や城内であった場所で、このころ長刀堀は物資の集散地として活用されてはいましたが、「城郭、侍屋敷は見る蔭もなき荒涼たる草野……。」（同）という状態でした。士族が去った跡地の多くは桑畑に、堀は水田として利用されていました。また、荒地もあったようです。

明治24（1891）年10月の濃尾地震は、加納の町をますます衰退させたようです。

のち、「加納の傘」と全国に知られる傘業によって、あるいは「文教地区」として加納の町がよみがえるのは、もう少し先のことです。

「弓子は、天満宮の境内へ近路を折れた。桜の落葉が思ひ出したやうに立ちあがって鳥居のぐるりを走った。水が美しいので名高いと、彼女は青い苔の小川を覗き込んだ。境内の裏の畦道から直ぐ広い道へ出た。正面に稲葉山の圓い重なりが見えた。右手に色づいた稲田が開けていた」川端康成は、このころの加納天満宮から東陸橋あたりを「海の火祭－鮎」の中で美しく表現しています。

その東陸橋は大正2(1913)年岐阜駅の移転によって作られ、これによって大正3(1914)年6月2日、美濃電気軌道、広江－笠松（西笠松）の開通につづき、東海道線を越えて12月26日、新岐阜－広江間が開通することができました。

今の市電のような電車の窓からは、きっと赤や青の傘の花が何百と咲きみだれているのが見られたことでしょう。

「夏は、猿股一枚、冬は厚司、股引き、草履を穿いて、油のしみこんで光る長い前掛けを下げているのであった。」(小島信夫「住還」より)こんな傘職人の手によって作られていた傘は、明治12(1879)年シドニー万博、明治36(1903)年内国勧業博(大阪)など内外の博覧会に出品、あるいは市場開拓によってこのころには全国各地に販売され輸出もさかんに行われていました。

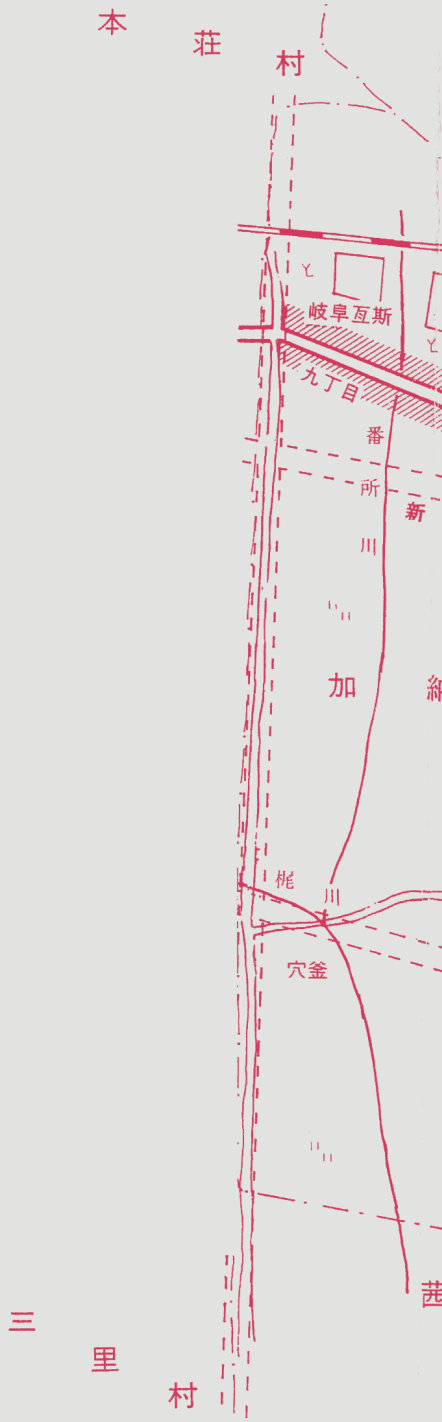
「大正時代が一番よかったんな。ええ傘ができネもよかったし、よお売れた。」と町の古老たち。しかし、東京、大阪などの百貨店による売価を無視した「乱売」あるいは粗製濫造によって苦しんだのもこの時代です。

明治32(1899)年岐阜県師範学校の移転に始まり、33年岐阜農林学校、44年岐阜県女子師範学校、そして、大正5(1916)年岐阜県加納高等女学校の開設と、教育施設が集中し、加納の町は文教の町としても知られるようになっていきました。それまで、荒地は田畑だった加納城内も武士ならぬ学生であふれるようになり、本丸跡も各学校のグランドとしても利用されるようになりました。

武家屋敷があった西加納2丁目附近より西は傘ほし場や、畑、桑畑の中に住宅が点在し、農林学校があった栄町附近からは、「南に寺屋敷、六丁の集落。遥かに鶉、茜部が見え、六条が西に連なるみごとな田園風景。」(市川徳男氏)が見ることができました。

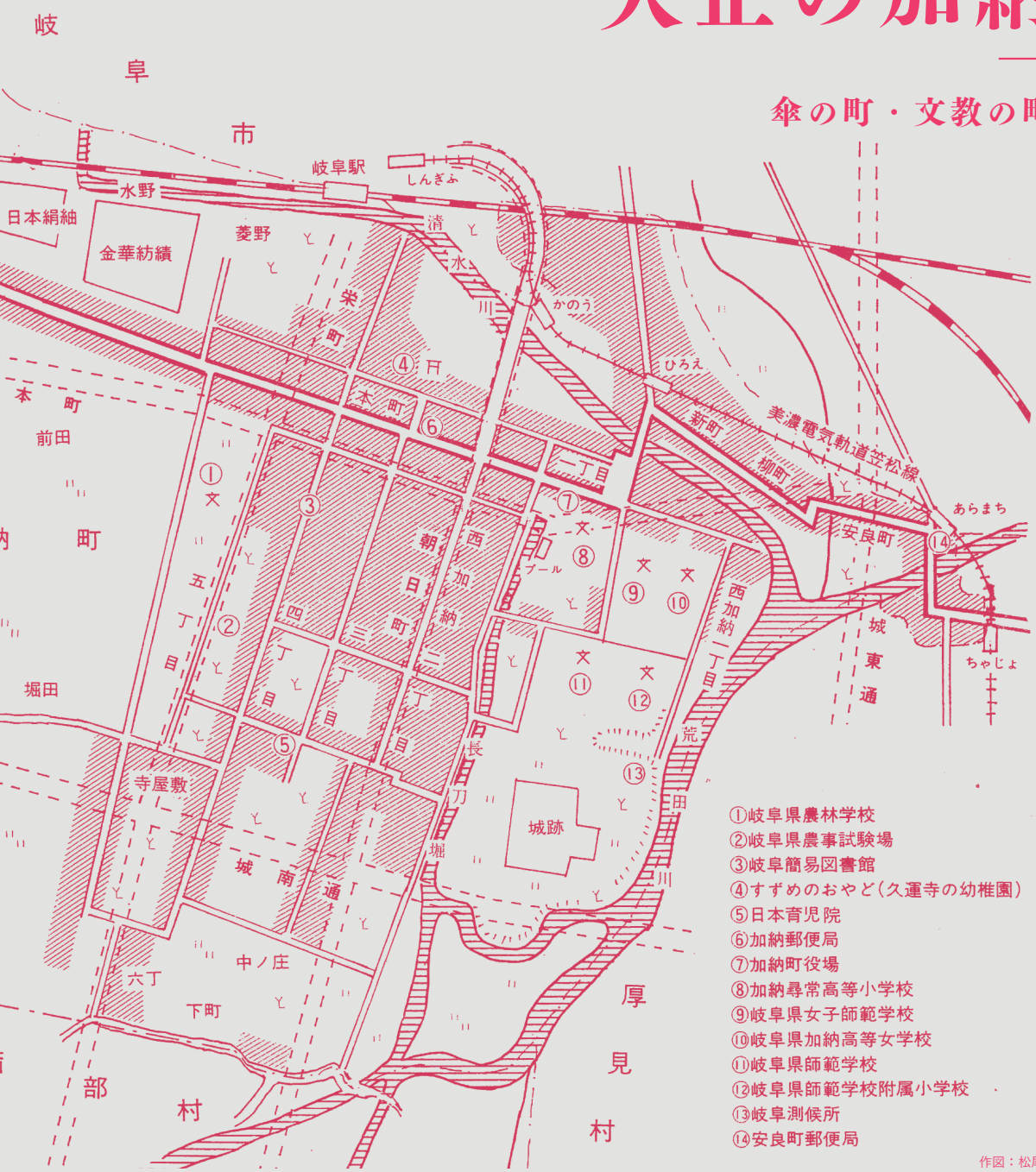
水野町附近では紡績工場が設立され「コウバ」に勤める人が多く見られるようになりました。

大正15(1926)年11月20日、鉄筋鉄骨コンクリート建築の加納町役場の落成は繁栄する加納の町を象徴するものといえるでしょう。



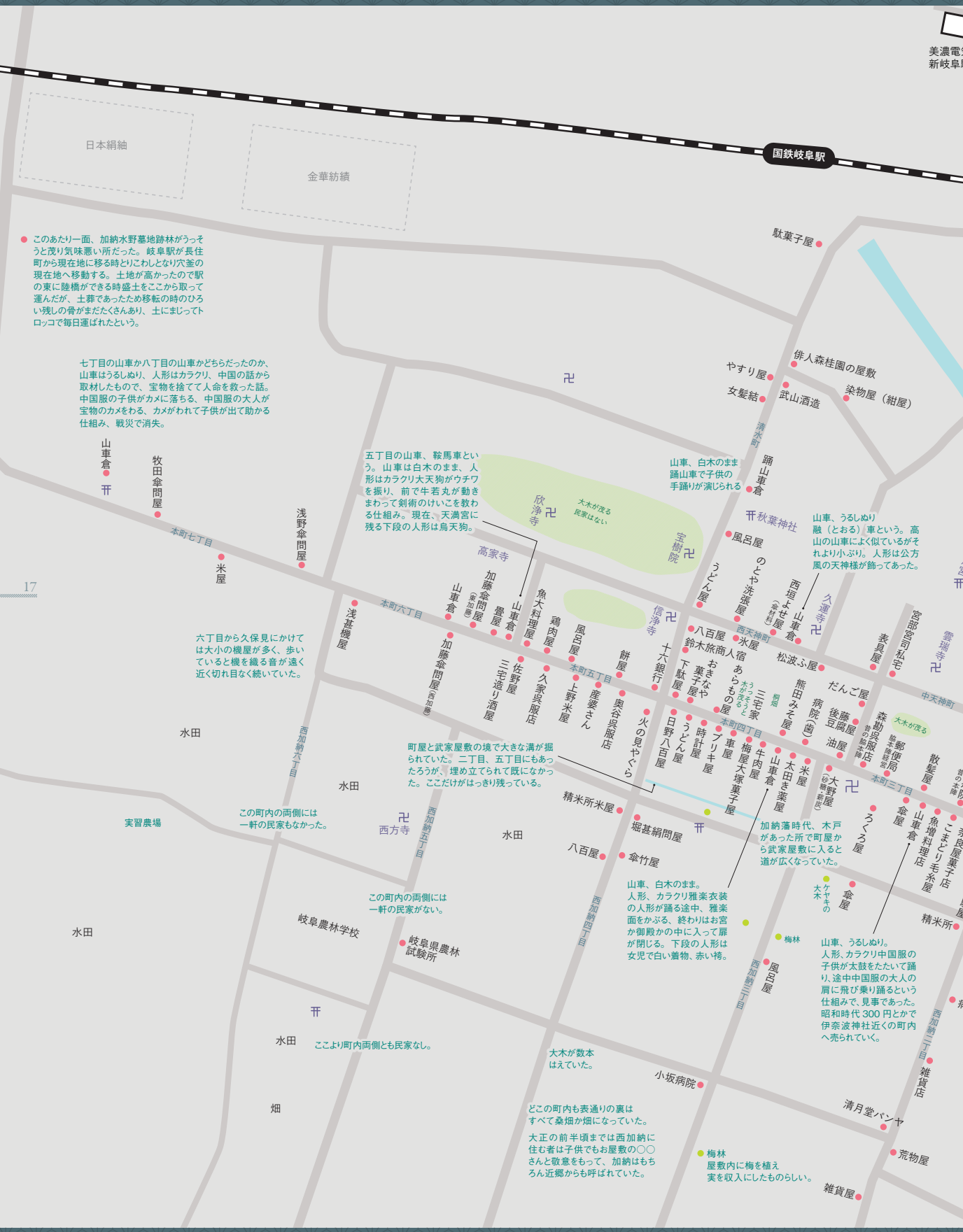
大正の加納

傘の町・文教の町



作図：松尾一

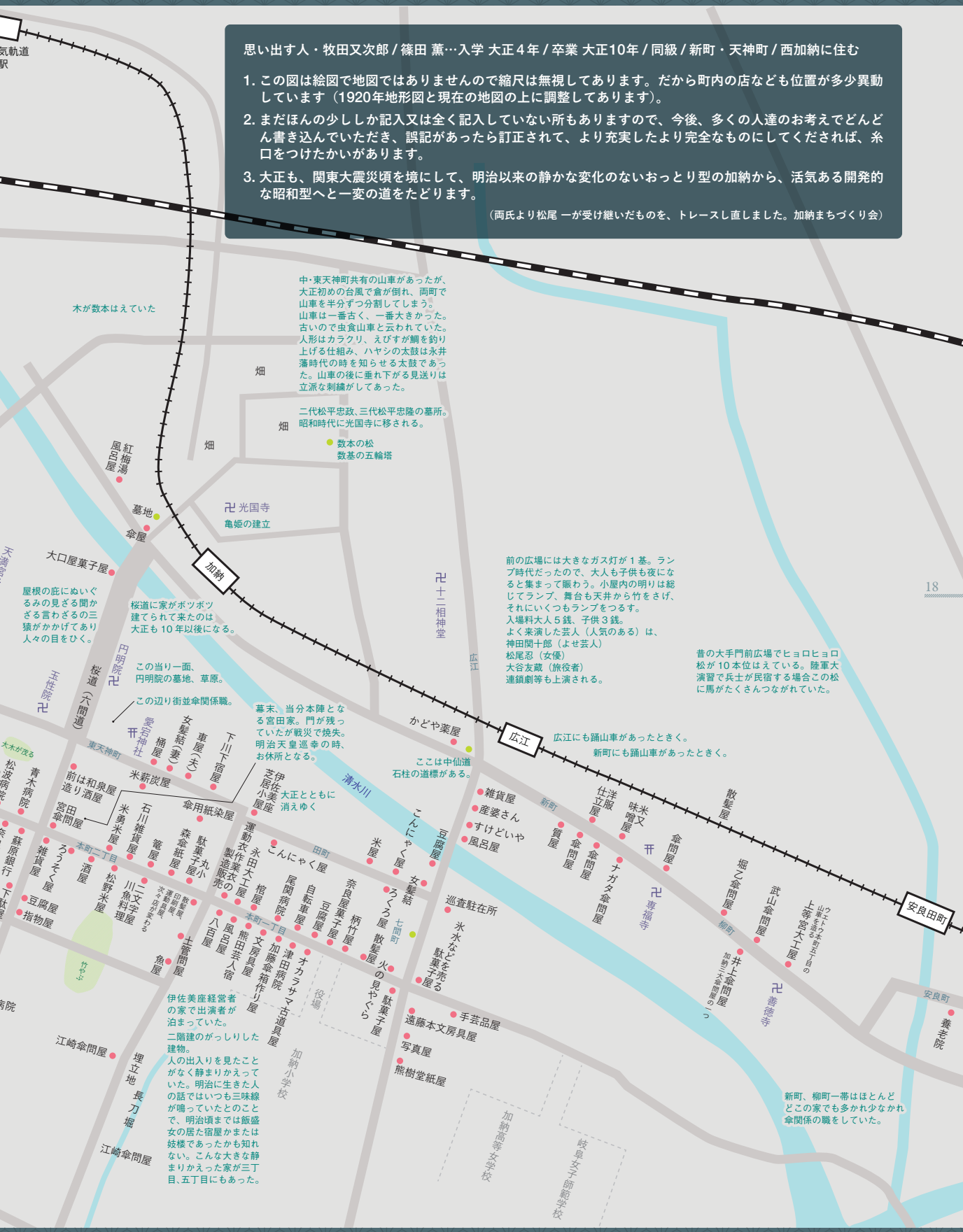
加納 1920　大正時代の自然 遺構　人々のくらしの図



思い出す人・牧田又次郎 / 篠田 薫…入学 大正４年 / 卒業 大正10年 / 同級 / 新町・天神町 / 西加納に住む

1. この図は絵図で地図ではありませんので縮尺は無視してあります。だから町内の店なども位置が多少異動しています（1920年地形図と現在の地図の上に調整してあります）。
2. まだほんの少ししか記入又は全く記入していない所もありますので、今後、多くの人達のお考えでどんどん書き込んでいただき、誤記があったら訂正されて、より充実したより完全なものにしてくだされば、糸口をつけたかいがあります。
3. 大正も、関東大震災頃を境にして、明治以来の静かな変化のないおっとり型の加納から、活気ある開発的な昭和型へと一変の道をたどります。

（両氏より松尾 一が受け継いだものを、トレースし直しました。加納まちづくり会）



加納の学校と加納天満宮

加納の学校

①大正10年頃迄の付属小学校では小学校生徒の服装は、男女とも着物、足袋、男は股引き（冬）、はかまをはくものは少数、下駄かぞうり、肩かけカバン男は学生帽をかぶる。お金持ちの女の子が股引きをはいていて、男の子にいじめられたことがある。男女学級もあったが、男の机列、女の机列と分かれ、同室に居るというだけで会話もないし、共に遊んだこともなかった。生活は別々だった。

②教室暖房
1年2年だけは炭火の大火鉢が入った1個だけ。他の学年はなし。時報、半鐘。1年生はノートのかわりに石ばん、石筆を使用。旧旧校舎は廊下外側に壁、窓がなく手すりだけで風、雨、雪が吹き降り込んだ。

③野球
ベースは石ころ、バットは青竹の棒、ボールは堅めのゴム製でいぼいぼがある。中央はおびが入る。グローブなし。捕手だけが痛いので自分の帽子の天井の所をたなごころに当てて受けた。

加納天満宮

加納天満宮は古くから加納の守り神として「天神さん」「天満さん」の愛称で親しまれてきた。初代加納城主奥平信昌公とその夫人亀姫（徳川家康の娘）も共に信仰篤く、信昌が造営した本殿、幣殿、絵馬殿、拝殿は末社に至るまで宏壮華麗を極めた。祭祀はもちろん、社殿の造営、修理などは領主先導で実施され、その後松平、大久保、安藤、永井公等、維新に至るまで代々尊崇をもって対処された。華やかで活気に満ちた祭の様子は「加納宿諸事覚帳」や「柴田与一日記」に記されている。

加納天満宮千年祭　明治35年

極彩色の昔の歌人の額が一面にかけてあり、近所の老人労働者の休み場、昼寝場となる。文化7年に築造され、当時で160両ほどかかり、棟梁は本庄の大工であったという。明治35年の大修理の際、奉納された三十六歌仙、六歌仙、松・梅の額は木製。絵や文字は板に直接描かれていて、裏側には歌人名と額を奉納した人の名が一枚毎に書かれている。

―本殿の石垣―
本殿は、はじめは平地に立てられていた。宝暦３年から３年がかりで町民や村百姓の奉仕で、各町内毎に分担し、岩戸山から大岩を運び出し、清水川、広江川から土を運び出来上がった。町民の神魂込められた築地である。

岐阜駅が現在地に移り陸橋が出来ると、ここが桜道をまわらず近道となり通る人が多かった。

湧水（ガマ）がコンコンと湧き出て、参拝人、通行人の水呑み場、手洗場、汗ふき場，休み場となる。後、深井戸に改造され、手がしびれる程冷たかった。

清水、冷水を好む針魚、八目うなぎ、せんばらなどがすみ、子供の魚とりの場となる。

●この辺、雲瑞寺の墓地、草原

大正頃の本殿

大正頃の手水舎

加納の百年　学校や施設など

岐阜農林学校正門　大正14年

明治33(1900)年、岐阜農学校として開校、明治40(1907)年に岐阜農林学校と改称した。昭和7(1932)年、本巣郡北方町に移転、戦後、岐阜農林高校となった。

加納町立加納小学校のプール　大正12年

小学校では日本で初めて50メートル6コースのプール。この頃、加納小学校は現在の旧加納町役場の南にあり、プールは長刀堀の北端にあり湧水を利用した。

岐阜農林学校の実習田　大正14年

左上に金華山に連なる山々がうっすら見える。実習田は、現在の青藤町、大黒町あたり一帯という広大なものであった。学校の畑で収穫された作物は大八車に乗せ、加納の町で生徒たちによって販売された。販売実習である。

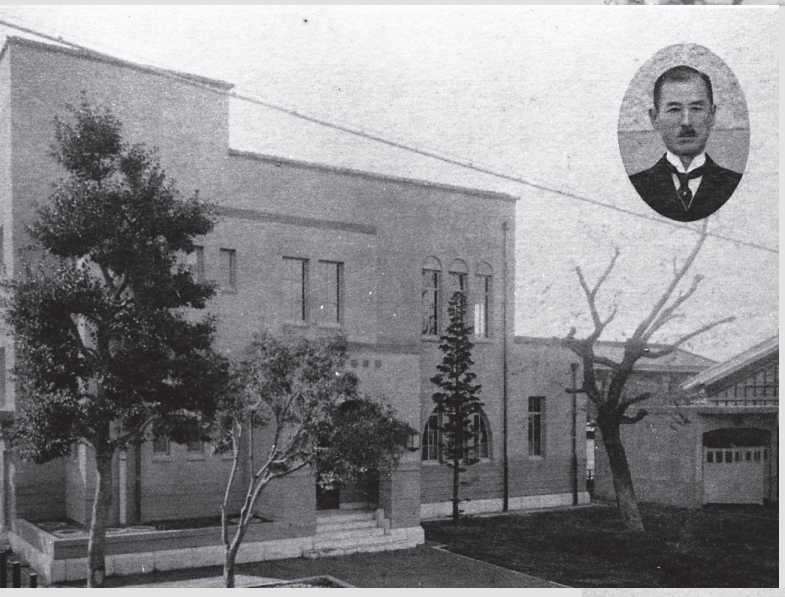
清田町の和傘干場　大正末期

広々とした干場である。雨が降り出すと大急ぎで傘を片づけたという。大風が吹くと和傘が宙に舞いきれいだったというが、傘屋にとっては災難であった。加納やその周辺では、戦後まもなくまで、このような和傘干場が多く見られた。

加納天満宮に勢ぞろいした山車　昭和17年

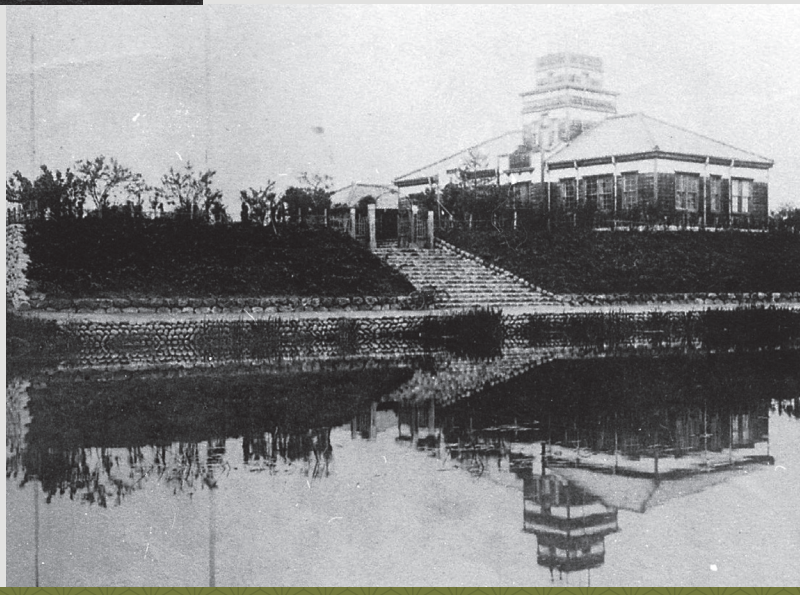
戦前まで、加納では蛭子山車、鞍馬山車、鯰押え山車、福寿山車などあったが、現在では鞍馬山車が残っており、加納天満宮境内に置かれている。

岐阜駅から旧・東陸橋を越えて加納に入る道に桜並木が植えられて「加納桜道」となった。現在はJRの高架化にともなって、JR・名鉄と加納中通りがつながっている。



大正15(1925)年に、日本の近代建築の第一人者だった武田五一の設計によって「旧・加納町」役場が完成した。左右非対称のイスパニア様式と呼ばれる鉄筋鉄骨コンクリートの2階建ての建物で親しまれた。戦後、GHQの事務所となり、日活の映画「拳銃無頼帖 明日なき男」(1960年)では、故・赤木圭一郎が警察から出てくるシーンで、また「男の紋章」シリーズでも高橋英樹が同様のシーンでこの建物が登場する。登録有形文化財に指定(2006年)されたが、耐震性の問題から解体され、中山道加納宿まちづくり交流センターに建替えられた。

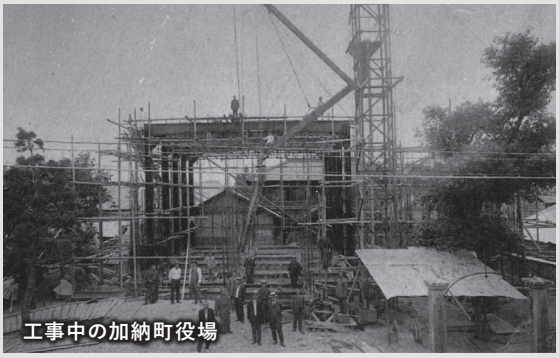
岐阜地方気象台は、明治14(1881)年に観測を開始し、大正6(1917)年に加納城二の丸跡に、荒田川にのぞんで建てられた。現在の建物は昭和51(1976)年の新しいものである。



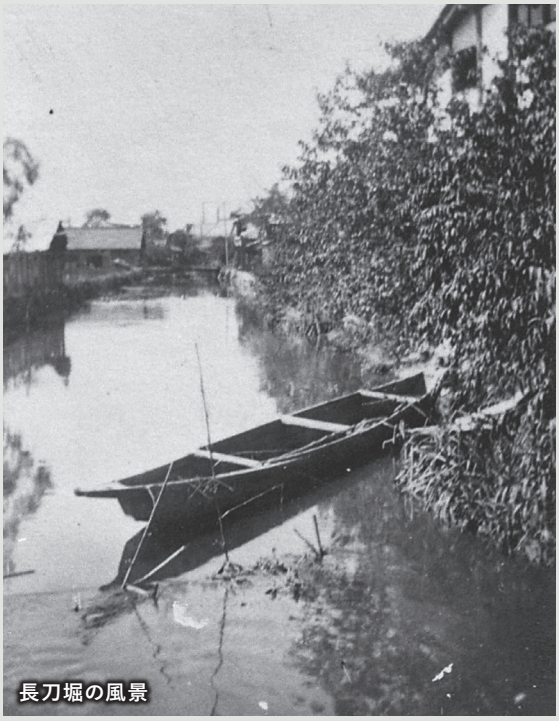
和傘の点検風景

師範学校の正門

つりこみ祭りの鬼とおかめさん


工事中の加納町役場

加納第二（西）小学校のプール


長刀堀の風景

『写真集　加納百年』松尾一・郷土出版社より

雪景色の中の旧・東陸橋

戦前の岐阜駅南口

昭和 12 年の旧国道（加納柳町）

和傘

その優美な雨具

◆ 日本人と和傘

日本人は竹と和紙を使用した色々な民具を育ててきました。扇子・団扇・提灯そして和傘。どれも竹の骨組みと和紙の融合により作り出される優雅な民具ばかりです。これらのルーツはどれも中国なのでしょうが、ごく自然に日本的美意識による改良が繰り返された結果、原産地の品々とはひと味ちがう姿に成長したのだと思われます。

和傘のことを唐傘と呼ぶ人もあります。唐傘は中国の傘の意でなく、開け閉めが自由に出来るカラクリ細工の傘の略称だともいわれます。平安絵巻に見られる傘は貴人に差しかける開いたままの傘で閉じることが出来なかったのですが、それが進化して現在の複雑な構造が出来上がり、往時のひとびとがカラクリと思ったのも不思議ではありません。現実に現存する竹製品のうち和傘の骨組みのように複雑なものは見出すことが出来ません。その仕組みだけでなく傘を閉じたときの美しさを追求し続けた先人の努力には頭が下がります。洋傘と比べて骨の数が数倍もあり、その上張った紙を内側に畳み込むのです。そして閉じた傘の形を最初に割った竹の姿に戻すように細心の注意を払います。出来上がった傘は竹林の中に育っている真竹のように滑らかで、気品のある姿が理想とされてきました。

◆ 美濃傘（加納傘）の歴史

岐阜市の加納地区は全国でただ1ヶ所の蛇の目傘の産地です。江戸時代から京都や江戸で美濃傘と呼ばれて、その優美さを珍重されてきた伝統の傘は、この土地で作り続けられてきました。最盛時の昭和24(1949)年当時には600軒の製造業者により、1ヶ月に百万本以上も生産されていた和傘も、現在では数軒の製造業者と数十人の職人達が僅かに伝統を守り続けています。加納の地は広重の版画にも見られるように中山道の宿場町として江戸初期より開けた土地です。徳川家康はこの地の交通上の重要性に着目し、長女亀姫の夫奥平信昌をこの地に封じ10万石を与えて加納城主としました。宿場町の傘屋ではなく地場の産業としての傘が加納の地に育ってきたのは宝暦年代（1760年頃）以降、当時の藩主永井氏は禄高僅か3万2千石で、10万石の当初の規模を維持するのは容易なことでなかったと想像できます。

財政が窮乏し藩主は年貢米の不足を補うために、現代風にいうサイドビジネスとして和傘を利用した事が昔の記録から窺い知れます。武士と町民の分業作業に発展していった傘業は、分業ゆえに各々の作業に精通し技術の進歩も著しく美濃傘としての名声が確立していったのです。加納城主永井氏は藩札として「傘一本札」「傘二本札」「ろくろ二個札」などを発行して貨幣と同様に流通させたのですが、これは当時傘業が盛んであったこと、そして藩主がこの仕事を保護奨励して財政の助けとした事の証です。明治時代まで山本傘として名を残した細くて美しい傘を考案したのは山本紋兵衛という武士でした。

静かな雨の夜に、
和傘におちる「雨の声」を聞いてみませんか。

◆ 美濃傘の作り方

加納の傘は十数人の職人による分業で作られます。主要な部品と材料は、骨竹・轆轤（ろくろ）・中棒・継ぎ糸・紙・絹生地・飾り糸・油・塗料です。骨揃え・横もみ・骨染・ためかけ・紙染・紙より・模様継ぎ・飾り糸かけなど細分化した分業になっています。

これらの人たちの技術が総合されて一本の傘が出来上がるのですが、原材料の良否は勿論、職人たちの息が合わないと優れた傘は出来ません。製造業者（問屋）は全部の分業を指揮・統率する役目です。これはオーケストラと指揮者の関係と同じだといえます。

骨師は自然に生えていた竹を再現する為に、後から張られる紙が骨と骨の間に入っても、傘を閉じた形が以前の竹の状態に戻ることを計算して竹骨を作ります。削った骨は筒竹の時に付けた印に従って元の順番どおりに並べて、一本分の傘骨が完成します。

張師も骨師と同様に高度な技術が要求されます。傘の骨組は中心にゆくほど間隔が狭くなり、紙を張るだけでなく、洋傘とは逆に内側に畳み込まねばなりません。傘を閉じた時に紙が皺にならず、その上美しい円筒形に閉じた姿を作らねばならないのです。油を塗る前の傘を「白張」と呼ぶのですが、腕の良い骨師と張師の手で出来上がった「白張」は精密機械で作られたかと見紛うばかりで、油を塗り漆をかけるのが惜しくなるほどです。

仕揚師は化粧師の役目です。白張に油を塗り天日で乾燥させます。完全に乾燥すると傘を閉じた表面に漆を塗ります。細く並んだ骨の上に漆を塗る時こそ腕の見せ所です。骨と骨の間に漆が入り込まないようにするには年季と細心の注意が必要です。

◆ 美濃傘（加納傘）の現状

主力商品だった蛇の目傘・番傘等雨具としての需要が激減した現在、取引先からの要望もあって色々な傘を製造しています。野点傘・絹舞踊傘・和紙舞踊傘・祭事用和傘・装飾用傘等々多岐にわたって製作するようになりました。その中には歌舞伎・日本舞踊など日本を代表する伝統芸能に使用するものもあり、また各地方の伝統行事に使用されたり、伊勢神宮・宮中など儀式用の製作依頼もあり、日本の伝統文化を維持する為の使命感が業者の支えとなっています。

どんな伝統的商品も同じだと思いますが、もっとも困難なのは後継者の育成です。特に和傘の場合、専門的分業の数が多く、育成事業は公共の援助なしでは無理だと考えられます。育成費を価格に転嫁することは不可能ではないでしょうか。一般的な商品は外国での生産が可能ですが、日本の傘文化を護るために日本の地で作らねばならない傘も多いのです。どうしたら加納の地に和傘を残せるか「アイデア」をお寄せ下さい。

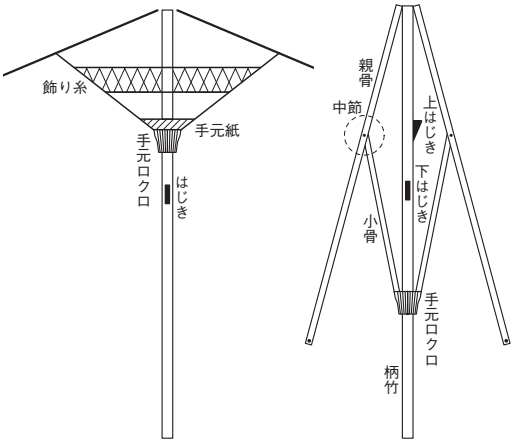
岐阜市和傘振興会

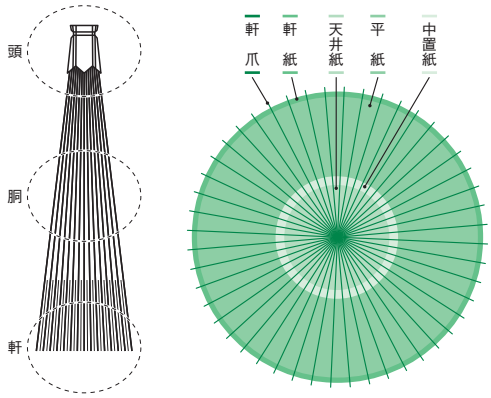
株式会社マルト 藤沢商店
岐阜市八島町 7 番地
TEL：058（271）3958

和傘の各部の名称

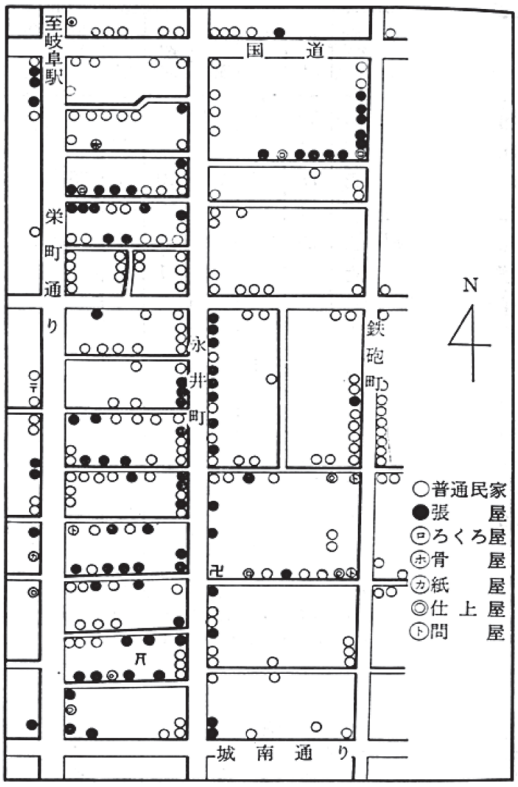
和傘は、まず真竹を割って「親骨」と「小骨」（支える部分）を作ります。一本の竹を割るときに、後で順番が揃うように印を刻んでおきます。最後に閉じた時にきれいにたためるのはそのためです。親骨の節のところに横穴を開けて、小骨の先を二つに裂いてはさみ、その間を糸で繋いでいきます。頭と手元には二つ轆轤を使います。轆轤にスリットを入れて、骨の横穴を糸で繋いでいきます。

柄には二つ「はじき」をつけて、二 段に開くようになっています。和傘教室の写真のように、その後、紙貼りになります。まず、軒紙を回して、等間隔に骨がそろうようにします。中置紙、さらに扇型にカットした和紙を順番に張っていきます。頭轆轤のところは、一巻き、のりを付けずに巻いて、スライドできるようにします。紙に油を引いて、飾り糸をつけて仕上げます。





加納の傘製造業者の分布



安藤萬壽男「岐阜県新誌」昭和25年 より

昭和 25(1950)年の最盛期には、1200万本もの和傘が生産され、隣も向いも和傘屋さんだらけでした。

工　程	職　名	仕事内容
1. 傘　骨	骨屋 小骨屋 骨染屋 骨そろえ 横もみ屋	黒、茶 飾り用の穴
2. 柄　竹	柄竹屋（繰込屋、下に）	
3. ロクロ	ロクロ屋 ぬり屋	
4. 傘場紙	原料 紙染屋 紙より屋 紙継屋	手漉紙～厚みのより分け カットワーク
5. 繰込作り	繰込屋	柄竹にハジキ、ロクロを付ける
6. 繋　ぎ	ツナギ屋	繰込に骨を糸でつなぐ 飾り糸
7. 張　り	張屋	平張屋、天井仕上
8. 仕　上	仕上屋 飾り屋 かがり屋	雨傘の工程をベースにしている （日傘、踊傘は別）
9. 付属品つけ	付属付屋	
10. その他	骨染屋 印屋 描絵屋	黒、茶に染める 筆文字 花の絵など、日本画、単価次第

和傘は分業で作られますが、需要がなくなり後継者も数少なくなりました。しかし、またそのデザインが見直されています。

お花見ウォーク

さくら祭りの時、みんなで和傘を差して加納の町を歩きました（2006年4月）。小降りの雨の中、清水川の橋を渡るところです。加納城本丸に着いた時は雨も上がり、野点の傘やカラフルな和傘を並べて写真を撮りました。

加納の残る和傘屋さん

運がよければきれいな和傘が干してあることがあります。

和傘振興会の和傘教室の様子

実際にやってみると結構、難しいですが、職人さんたちが丁寧に教えてくれます。歴史博物館でも別に和傘講座が行われています。

加納マップ　お寺と神社

◆ 加納天満宮

加納築城以前からまつられていた古社で、慶長年間に現在地に移設された。戦災で焼け残った唯一の拝殿は文化7(1810)年創建で、三十六歌仙や六歌仙の額などの宝物や山車（鞍馬車）がある。例祭の天神祭り、みそぎ祭り、提灯まつりなど参詣者で賑わう。平成15(2003)年、本殿造営工事が竣工した。

◆ 妙泉寺

日蓮宗、江戸時代の力士・鏡岩源之助が悪い行ないを改心して木造の「ぶたれ坊」を建て、茶をふるまった（茶所の地名由来）という。その後、 像は妙泉寺に移された。

◆ 久運寺

曹洞宗。文明元(1469)年、加納清水に小庵を建立。天正年間作の仮名草紙「因果物語」に不思議な鶏の寺として記されている。寛文5(1665)年、城主松平光重より「お茶壺道中」の本陣を命ぜられたが拒否したため住職の玉葉和尚は追放されたといわれる。

◆ 西方寺

川端康成の「篝火」などのモデルとなった伊藤初代さんが当時、このお寺にいた。

◆ 玉性院

戦後まもなく始まった、節分のつり込み祭りが有名。真言宗醍醐派。慶長年間の1601年から1614年頃の創建。

◆ 盛徳寺

臨済宗妙心寺派。三河にあった奥平家菩提寺増瑞寺を移し、亀姫没後は盛徳寺と改称した。境内には円墳式の墓所2基があり(市指定史跡)向かって右が亀姫、左が信昌の墓である。

◆ 穴釜墓地

明治45(1912)年に水野墓地が廃止されて移転したもので、約4500坪、1132区画もある大きな墓地である。加納宿松波本陣をはじめ、地区民の先祖の墓地となっている。大正2(1913)年2月に墓地完成を記念して、加納町発展功労者の顕彰碑「永井肥前守殿家臣」として23名の霊仏が収められた。

◆ 猿田彦神社

加納城の南西の鬼門の守りといわれる。

◆光国寺

臨済宗妙心寺派。亀姫が慶長19（1614）年に創建し、死去後に埋葬された五輪塔墓がある。市指定文化財の亀姫画像を所蔵。他にも、信昌、亀姫、秀忠公の書状等や由緒ある屏風を所蔵する。

◆十二相神

亀姫から咎められた12名の侍女を祀るというが真相は定かでない。かつては乳の神様として崇められた。
毎年9月、光国寺の住職によって祭礼が行われている。山田家のいわば屋敷神。

◆水薬師寺

臨済宗妙心寺派。慶長17（1612）年、伊三郎という者が清水川にて拾い上げた黄金佛を光国寺に奉納し、藩主忠政と亀姫はこれを慶び清水川に水上殿を建て安置した。以来水薬師または乳薬師と呼ばれ、乳がよくでる仏として親しまれている。
7月20、21日には清水川の万灯流しが盛大に行われている。

◆専福寺

浄土真宗大谷派。善徳寺と同じく木瀬草庵ゆかりの寺で、天正4（1576）年、織田信長の石山本願寺攻めの時、時の住職忍悟は、門徒を引き連れ参戦、討死にしている。寛永12（1635）年、現在地に移転した。信長の朱印状などが残されている。

◆善徳寺

浄土真宗本願寺派。高倉天皇の勅願寺として川手に建立。のち浄土真宗に改宗。親鸞が関東から帰京中に三河で、葉栗郡の人が親鸞に帰依して建立した木瀬草庵ゆかりの寺。元和年間（1615～1624）に現在地に移転した。

◆八幡神社

祭神は応神天皇。慶長年間に奥平信昌侯が加納城の鬼門として移して建てた。

加納は最初、城下町として縄張り（設計）され、すぐに宿場町の機能も持たされた。寺院は城下町の北西と、西に集まるようにしてあり、まるで寺院を集めた寺町のような景観だが、他の城下町でも寺院を集めるような配置がみられる。寺院は瓦屋根でしかも土塀で囲まれていたから城壁のような目的もあった。加納も同じように加納城を敵から防ぐ役目があったと思われる。

加納の

つり込み祭り

□玉性院 ◇節分

街角に
大きな鬼が
現われます

さくらまつり

□3月末～4月初め頃

清水川の桜が映えます。

水薬師万灯流し

□7月20・21日

美濃中山道ふるさとまつり

□11月

中山道の歴史と
文化を共有する
地域住民の交流の場として
JR 岐阜駅南口前で
お祭りを開催しています。

※水薬師万灯流し、美濃中山道ふるさとまつりは中止されています

お祭り

みそぎ祭り

◇天満宮　◇6月30日

半年間のうちに
溜まった罪や穢れを祓い
清め、新しい自分に生まれ変わるための行事です。形代（人形をした紙）で体をさすり、息を吹き込み、拝殿前の芽の輪をくぐり、神主の振る大麻でお祓いを受け、撒かれる切麻（白い紙きれ）で身を浄めると、無病息災がかなえられます。

提灯まつり

◇7月14日
◇天満宮の境内にある津島神社

知恵と勇気で八岐大蛇（ヤマタノオロチ）を退治したスサノオノミコトをお祀りする津島神社のお祭りです。オロチの赤い目を表す赤丸提灯をささ竹の小枝につるし、灯をともして町内毎に参拝し、夏の無病息災を祈ります。この祭りが終わると暑い夏の開演です。

加納天満宮の例祭
加納天神まつり

◇からくり「鞍馬天狗」が上演されます。
◇10月第4土・日

加納に戦前9両あった山車のうち、地震や戦災を乗り越えて生き残った、加納に現存する唯一の山車「鞍馬車」が曳かれます。岐阜市指定重要有形民俗文化財です。（昭和59年3月9日指定）

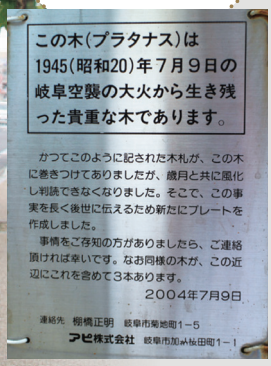
\鞍馬車/

＼加納にある／

ちょっと見どころ

A LITTLE ATTRACTION OF KANOU

1 岐阜西通りのアピの前の歩道には、岐阜空襲で生き残ったプラタナスの木があります。



2 中広江町を北から見ると、名鉄の踏み切りの手前で道路が狭くなります。空襲で焼け残ったところと、その後に拡げたところの違いが分かります。

3 金華山の南から流れてくる新荒田川と、JR 岐阜駅方面からの清水川が合流するところに親水公園があります。

4 中山道のシンボルの時計台です。

5 岐阜駅の高架化にともなって、東陸橋はなくなりましたが、名鉄の高架にはその名残が残っています。上は3階部分を走るJR線です。名鉄の高架化も計画されています。

6 加納小学校にあった旧師範学校以来の門が新しくなりました。

こちらの写真はその後身にあたる岐阜大学教育学部郷土博物館にある旧加納藩士の鎧です。

7 加納高校のシンボルは、敷地内にはすべて白梅が咲くことです。

9 清水川の開花樹の桜です。

8 加納西みち再生事業により、加納西小の南側の歩道が安全になりました。和傘のデザインもあります。

10 加納天満宮にあるボーイスカウト、和傘の石碑です。

新・加納ものしり博士検定

問 01　岐阜市の桜の開花を宣言する基準木が加納にあります。その場所は？
A. 加納城跡　B. 荒田川堤防　C. 清水川　D. 穴釜墓地

問 02　ハートフルスクエアーGの南にある清水川沿いにある公園の名前は？
A. 清水緑地　B. 蛍の里　C. 鮎の里　D. 天満公園

問 03　初代加納城（藩）主奥平信昌の妻亀姫は、誰の娘？
A. 織田信長　B. 豊臣秀吉　C. 明智光秀　D. 徳川家康

問 04　加納の夏の祭りといえば、水薬師寺の万灯流し、提灯まつり、みそぎ祭りですが、みそぎ祭りの開催日は？
A. 5月5日　B. 7月20日・21日　C. 7月の第1日曜日　D. 6月30日

問 05　現在の岐阜市立陽南中学校がある場所は、かつて別の学校でした。学校名は？
A. 岐南工業高校　B. 岐阜大学教育学部　C. 岐阜高校　D. 岐阜農林高校

問 06　平成28年に解体された旧加納町役場の設計者は？
A. 丹下健三　B. 黒川紀章　C. 武田五一　D. フランク・ロイド・ライト

問 07　加納天満宮の本殿前の石段は何段？
A. 9段　B. 13段　C. 15段　D. 845段

問 08　加納の八幡町から本町までの中山道は、ある色の鋪装がされています。何色？
A. 青色　B. 緑色　C. 黒色　D. 黄土色

問 09　加納には加納歴代藩主の名前が付けられている町名は奥平町ともう一つあります。何町？
A. 加納徳川町　B. 加納永井町　C. 加納前田町　D. 加納坂井町

問 10　加納を走るコミュニティバス「加納めぐりバス」。加納地区以外もバス停があります。どこ？
A. 村上記念病院前　B. 市民病院前　C. 下川手バス停前　D. 華陽郵便局前

問 11　本町8・9丁目の境の加納宿西番所跡近くにある馬頭観音は道標となっています。右は岐阜、左はどこ？
A. 京　B. 大垣　C. 河渡　D. 谷汲

問 12　加納城の鬼門除けの神社は2社あります。八幡神社ともう1社は？
A. 天満神社　B. 金刀比羅神社　C. 愛宕神社　D. 猿田彦神社

問 13　穴釜墓地の設立年は？
A. 明治5年　B. 明治45年　C. 昭和22年　D. 昭和40年

問 14　穴釜墓地に、昭和4年に建立された耕整碑があります。耕地整理した場所はどこ？
A. 大手町あたり　B. 長刀堀あたり　C. 名鉄加納駅あたり　D. 加納西校区あたり

問 15　江戸時代、加納宿には3カ所の番所がありました。本町8・9丁目の境と、柳町と、もう1カ所は？
A. 名鉄茶所駅付近　B. 長刀堀4付近　C. 北広江の高架下　D. 岐阜西通りと本町9の交差点

問 16　関ヶ原の戦いの直後、加納城築城を命じた大名は？
A. 織田信長　B. 徳川家康　C. 奥平信昌　D. 加藤清正

問 17　加納藩大久保氏は、寛永16年、加納から転封しましたが転封先は？
A. 信濃松本　B. 上野小幡　C. 播磨明石　D. 備中松山

問 18　明治20年代の、加納城本丸跡の状態は？
A. 桑畑　B. 公園　C. 加納小学校の校舎　D. 竹林

何問解けるかな？
現地や図書館で調べたり、知っている人に聞いて、チャレンジ！
この冊子の中にもヒントがありますよ。

問 19　加納城本丸跡の東の加納公園に少年像があります。この少年、何に乗っている？
A. 自転車　B. ライオン　C. 馬　D. 象

問 20　「岐阜県ボーイスカウト発祥の地」記念碑の場所はどこ？
A. 加納天満宮　B. 加納公園　C. 清水緑地　D. 南陽町公園

問 21　大正時代に加納を訪れたことがあるノーベル賞作家は？
A. 夏目漱石　B. 森田草平　C. 小島信夫　D. 川端康成

問 22　元東陸橋の加納側の東、名鉄の線路沿いの植え込みにある小さな碑は？
A. 篝火の火　B. 聖火の碑　C. 蛍の碑　D. 和傘の碑

問 23　加納城本丸跡（堀跡は除きます）の中にあるベンチは何脚？
A. 3脚　B. 13脚　C. 15脚　D. 18脚

問 24　加納幼稚園と加納小学校の間、大イチョウの木がある小山の名前は？
A. ひだまりの丘　B. 聖なる杜　C. 思い出の森　D. 加納冒険山

問 25　江戸時代、岐阜地方気象台があった場所は？
A. 本陣　B. 一里塚　C. 本丸御殿　D. 御三階

問 26　広重の「木曽海道六十九次 加納」は、どこを描いたもの？
A. 八幡町南の若杉町付近からの加納城　B. 雪の加納天満宮
C. 雨の中の加納城大手門　D. 加納宿外れの往き来の松

問 27　江戸時代、八幡町から南、笠松に至る八丁畷と呼ばれ、松並木が見られた街道の岐阜市での愛称は？
A. 姫街道　B. ぶり街道　C. 鯖街道　D. 御鮨街道

問 28　新荒田川に架る加納大橋の欄干のレリーフ。モチーフは何？
A. 鵜飼　B. 和傘　C. 加納城　D. 参勤交代

問 29　加納の和傘は昭和25年には最盛期を迎えました。その生産数は？
A. 1200万本　B. 120万本　C. 1万本　D. 5000本

問 30　加納の名産である和傘づくりを、奨励し発展させた加納藩主は？
A. 永井氏　B. 奥平氏　C. 安藤氏　D. 大久保氏

問 31　加納藩では「傘札」と呼ばれる藩札を発行していました。何種類？
A. 2種類　B. 3種類　C. 5種類　D. 8種類

問 32　加納の和傘は十数人の熟練職人たちの手で作られています。その工程の数は？
A. 約15工程　B. 約50工程　C. 約80工程　D. 100工程以上

問 33　江戸時代、加納の和傘に使用した紙は、主にどこの産地の和紙？
A. 越前和紙　B. 美濃和紙　C. 土佐和紙　D. 飛騨の山中和紙

問 34　加納には戦前、9 台の山車がありましたが、現在 1 台現存しています。それは？
A. 蛭子車（本町3）　B. 福寿車（本町6）　C. 鞍馬車（本町5）　D. 鯰押え車（本町7）

問 35　加納まちづくり会のマスコット「加納かめ姫さま」の着物の柄は？
A. 梅　B. 桜　C. 紅葉　D. 菊

新・加納ものしり博士検定　正解と解説

問 01　**C. 清水川**
清水川右岸、水薬師寺の対岸あたりの桜で、毎年、岐阜地方気象台から職員が来て開花宣言をします。

問 02　**A. 清水緑地**
正式には、泉の杜・清水緑地。かつて天満公園といい、弓道場や体育館、児童プールがありました。ヒマラヤ杉は当時からありました。

問 03　**D. 徳川家康**
徳川家康の娘、亀姫は、家康の正室築山殿との長女として誕生。２代将軍秀忠の姉にあたります。

問 04　**D. 6月30日**
加納天満宮のみそぎは、毎年この日の開催。茅萱（ちがや）くぐりともいい、半年間の穢れを祓う神事です。

問 05　**A. 岐南工業高校**
岐南工業学校の跡地に、昭和56年、岐阜市立陽南中学校が開校しました。小学校区は加納西と三里です。
岐阜市立加納中学校から分離した中学校なので加納中とは制服がほぼ同じ。女子のスカーフの色が違うだけです。

問 06　**C. 武田五一**
関西建築界の父といわれた武田五一が設計した加納町役場は、大正15年11月、竣工しました。
武田五一が設計した建物は現在でも多く現存し、岐阜市では名和昆虫館があります。

問 07　**C. 15段**
石段を上がるごとに、清められるような感じがします。

問 08　**D. 黄土色**
加納宿を通る中山道のルートは道路が幾つも折れ曲がり、訪れる人々の中には間違える人もありました。
この鋪装のおかげで間違いなく中山道のルートをたどることができます。

問 09　**B. 加納永井町**
戦前、加納では耕地整理がされて新しい町名が名付けられました。加納永井町は昭和９年に誕生しました。
ちなみに加納永井町あたりは江戸時代、武家屋敷がありました。

問 10　**A. 村上記念病院前**
平成20年、岐阜市コミュニティバス本格運行第１号の「加納めぐりバス」はJR岐阜駅、学校、病院、アピタ岐阜店などを巡り、毎日、子どもからお年寄りまで利用しています。

問 11　**D. 谷汲**
西国三十三ヶ所巡礼の満願成就の谷汲山華厳寺を案内する道標で、加納安良町の交差点、JR岐阜駅前の「やすらぎの里」など多く見られます。西国三十三ヶ所巡礼が盛んだったことを物語っています。

問 12　**D. 猿田彦神社**
源氏系武家に信仰が厚い八幡神社は加納城の北東の表鬼門に、猿田彦神社は南西の裏鬼門にあたります。
猿田彦は天孫を導いた神と伝えられ庚申の神、方位、交通安全、開発の神として知られています。

問 13　**B. 明治45年**
国鉄（JR）岐阜駅の現在地への移転にともない、敷地内となった水野共同墓地を廃止して、新たに穴釜墓地を設置しました。

問 14　**D. 加納西校区あたり**
岐阜県農業試験場の移転にともない、昭和３年着工し４年に完成しました。この時、岐阜第二中学校（加納高校）と加納第二小学校（加納西小学校）の敷地もできました。のち、栄町、大手町あたりが耕地整理されています。

問 15　**C. 北広江の高架下**
北広江の鉄道高架下あたりに、加納宿北の番所がありました。３カ所とも木戸があり、防犯などのため夜間は閉められていました。

問 16　**D. 徳川家康**
関ヶ原の戦いの前哨戦で落城した岐阜城を廃して、自ら設計して加納城の築城を命じたのです。
これは大坂の豊臣方に備えたものといわれています。

問 17　**C. 播磨明石**
大久保氏は、武蔵騎西、美濃加納、播磨明石、肥前唐津、下総佐倉、相模小田原と転封し明治を迎えました。

問 18　**A. 桑畑**
本丸跡を始め、鉄砲町、永井町など多くの武家屋敷の跡が桑畑となっていました。
当時、養蚕が盛んで、生糸や絹織物が輸出されていました。

問 19　**B. ライオン**
昭和30年、加納初代藩主奥平信昌の子孫第17代奥平昌信が、小笠原安兵衛に依頼し寄進したもので、当初は岐阜県総合運動場（岐阜メモリアルセンター）にありましたが、昭和62年、現在地に移転しました。

問 20　**A. 加納天満宮**
岐阜県のボーイスカウト運動は加納の地に興り、加納天満宮の境内を活動の場としていました。

問 21　**D. 川端康成**
東京から加納に来ていた伊藤初代を訪ね、婚約しましたが破局。
のち、川端康成は、その体験を元にして「海の火祭り—鮎」「非常」など多くの小説で発表しています。

問 22　**B. 聖火の碑**
昭和39年、東京オリンピックの聖火リレーが同年10月2日、この道を通ったことを記念して建立。
ちなみに、昭和33年5月14日、第３回アジア競技大会の聖火リレーもこの道を通っています。

問 23　**C. 15脚**
芝生周辺に13脚、南東角の少し登ったところに２脚あります。

問 24　**C. 思い出の森**
加納幼稚園と加納小学校のランドマーク的な存在です。江戸時代、この場所は加納城三の丸の北東角にあたり櫓がありました。

問 25　**D. 御三階**
岐阜城から移築したものといわれています。

問 26　**A. 八幡町南の若杉町付近からの加納城**
はっきりと断定できませんが、描かれている加納城の角度から見ると、このあたりかと想像できます。

問 27　**D. 御鮨街道**
江戸時代は岐阜街道とか名古屋（尾張）街道と呼ばれていました。
この道を通って長良川の鵜飼で獲れた鮎をなれ鮨にして江戸幕府に献上したので、いつの頃からか不明ですが、岐阜市では御鮨街道、羽島郡笠松町では鮎鮨街道という愛称で呼ばれるようになりました。

問 28　**D. 参勤交代**
江戸時代、加納宿の安良（荒）町と八幡町の間を流れている川に架けられていた橋で、中山道が通り参勤交代の行列も通っていました。だからこれをモチーフにしたのです。

問 29　**A. 1200万本**
最盛期の生産は年間1200万本でした。

問 30　**A. 永井氏**
加納の和傘は永井氏の時代、明石から職人を呼んだことに始まると伝えられています。
以来、加納の和傘は名産品として発展していきます。

問 31　**C. ５種類**
傘二本札、傘一本札、糸札、轆轤三札、轆轤二札がありました。加納藩の財政を助けるために発行したのです。

問 32　**D. 100 工程以上**
１本の和傘は、大工程に分けても９つで、全工程では100以上、数ヶ月かけて作られています。

問 33　**B. 美濃和紙**
主に、美濃和紙は現在の美濃市の板取川流域などで生産されていました。それを長良川の水運などで加納に運ばれてきたのです。

問 34　**C. 鞍馬車（本町５）**
戦後は、春の祭礼のおりに天満宮境内に置かれているだけでしたが、現在は秋の天神まつりで巡行されます。

問 35　**A. 梅**
加納かめ姫さまは、梅の柄の着物に亀のかぶり物をかぶり、赤い和傘をさしています。みなさんかわいがってください。

※「新・加納ものしり博士検定」は、加納まちづくり会が平成17年度から平成20年度まで、４回開催した「加納ものしり博士検定テスト」から選出した出題と新たな出題で構成しました。

都市構造からみた加納と、これからのまちづくり

富 樫 幸 一

◆加納城下町の規模と特徴

加納のまちづくり（今でいえば都市計画）を歴史的に遡ると、江戸時代初めの加納城下町と中山道加納宿から始まります。室町・戦国初期の土岐氏の時代は、館や寺院はあったものの、人口の集住する市街地はなかったようです。

加納藩初代の奥平信昌の10万石は、譜代大名としては相応の規模ですが、最後の永井氏の時代には3.2万石（うち、1.2万石は大阪の佐太陣屋（守口市））の小藩になっていました。一方、中山道加納宿は東西2.3kmにも及び、中山道全体の中でも最も大きな宿場の一つでした。

ヨーロッパでは都市図を「プラン」と呼び、周囲は城壁で囲まれて、密集した市街地の中心に教会、市庁舎や広場があり、現代でも古い都心部は中世のそのままの姿を保っている町があります。

日本の近世城下町は、士（農）工商の秩序にそった棲み分けを基本とした町割り、これも今の言葉で言えばゾーニングが行われており、武士でも家老から足軽までの身分によって城の近辺から城下町の周縁部まで区分されていました。寺院群はヨーロッパの教会とは違って、城下町の外周に配置されました。城壁の制約はないために、当時でも人口の増加に伴ってスプロールしがちで、尾張藩領だった岐阜町も、御鮨街道にそって上加納まで家並みが南に延びていました。格式に応じた住居の形態の規定があって、道路網、水路網も防御だけではなく、屈曲による変化や、金華山や伊吹山を望むように、景観デザインにもよく配慮されていました。

17世紀中ごろの加納の地図（4ページ）を見ると、北側では加納宿が東西に長く延びており、南東に加納城、その西側に武家屋敷が広がっていました。明治24（1891）年の地形図（13-14ページ）によっても、江戸時代とあまり骨格が変わっていないことが分かります。

◆加納周辺の微地形と土地利用

地形的にみると、長良川の緩い扇状地の南端に位置しています。扇頂の長良橋付近の標高は15m、扇端となる約3km南の加納で10m、その間の勾配は1000分の1.7（一般には5以上）にすぎません。御鮨街道にそって鞍屋町や米屋町辺りを自転車で南下してみないと、ほとんど傾斜があることは分からないでしょう。

現在の本流の右岸（北）側の緩扇状地の上では、昭和15年に締め切られるまで古川と古々川が分流していましたが、左岸（南）側にも、西別院前の忠節用水沿いのラインと、もう一つ、上加納山西南麓の橿森神社辺りから、柳ヶ瀬を南西に貫いて（アクアージュはその跡）、大宝寺を巻いて南東に転じ、現在は岐阜駅から地上に現れる清水川にあたる、二つの旧河道が読み取れます。

加納の中でも中山道は微高地上を走っているのが、ちょっと離れた周りの道からよく見ると分かります。清水川の南側では旧自然堤防上に街道があります。中山道をさらに西に向かって本荘から鏡

島に行くルートも、水害時でもほとんど水につからなかった微高地上を延びていきます。

加納城と武家屋敷の一帯は、長刀堀や荒田川などを堀としてめぐらしていますが、ほとんど平坦なために、自然堤防と後背湿地が入り交じる自然堤防地帯に入っています。さらに南東方面には木曽川の旧流路の一つの現在の境川があります。室町時代の土岐氏の革手（川手）の館（12ページ）は、この旧木曽川に面していました。

◆ 旧城下町の近代化の中で

明治維新の直後、廃藩置県と秩禄処分によって住民としての武士階級を失って、全国の多くの城下町はいったん衰退します。その後、今度は近代社会の行政や教育の中心として、さらには工業化や商業の発展によって都市化の道をたどります。

典型的には金沢や名古屋のように、城下の周囲に広がる都心部と、その外縁に新たに立地する鉄道駅前の二眼レフ構造を持つようになるといいます。岐阜の場合は、明治半ば～昭和初期までの中心だった伊奈波は衰退して、中心部は南下し、柳ケ瀬と名鉄岐阜駅前の二つの商業地ができます。

現在の岐阜市の都心軸では、長良川と金華山麓に位置する旧岐阜町と、さらに長良川の緩扇状地南端の加納という、二つの核が連担するという独特な構造からスタートしました。

都市地理学的にみたツイン・シティ（双子都市）としては、例えばドナウ川を挟んだブダ（と）ペストなどが知られています。国内で岐阜のような場合がないか考えてみると、合併して長野市となった善光寺門前町と松代城下町が思い浮かびますが、この二つは千曲川両岸の扇状地上に位置していますが、市街地としては少し離れています。

旧岐阜町は道三・信長によって住民を集めて作られた城下町としてはかなり早いものの一つでした。関ヶ原の合戦での落城後は、幕府、さらには尾張藩の奉行所が置かれる商業町となっていました。

岐阜市は、明治22（1889）年に全国で市制が一斉にしかれた時の一つで、もうすぐ（2019年）130周年記念となります。当時の市制の基準であった人口2.5万人を旧岐阜町だけでは満たすことができなかったので、上加納村の岐阜（御鮨）街道沿いの市街地を編入しました。同時期の東海道線の開通により、南下を始めていた岐阜の市街地と、加納町の間に停車場（駅）が設けられました。県庁や市役所は旧岐阜町の外縁に建設、あるいは移転され（現在の京町周辺）、名古屋のように城の周辺に公共施設を置くスペースはなかったのです。

一般の城下町由来の都市では、町外れに新設された駅の反対側は後背湿地などになっているために開発は遅れて、高度成長も後半以降になって、農地が区画整理事業によって開発されると新市街地となります。金沢や富山でも、駅西（北）側にオフィスビルやIT系企業の立地がみられます。

ところが戦前の岐阜市と加納町の場合は、東海道線を挟んで独立した自治体として、それぞれ基盤整備や企業立地が進められていました。このように城下町起源の県庁所在都市の都心部の発展とはかなり違ったパターンが、岐阜市と加納地区の場合は起こってきたのです。

◆ 都市基盤の形成

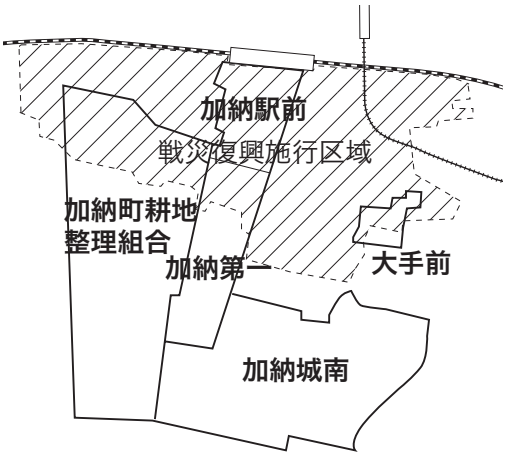
江戸時代の加納城下町と中山道加納宿の人口は、3,138人、岐阜町の方は6,782人（宝暦6（1756）年、『岐阜市史近世編』）であり、加納からみるとその約2倍の規模の商業町が近接してあったわけです。

明治維新後、城下町の武家屋敷区域はほとんど全国的に衰退するし、加納町もその例外ではありませんでした。明治半ばの地図（13ページ）を見ても、旧武家屋敷の一帯では、宅地もまばらにしか存在していませんでした。明治13（1880）年頃の状況では、加納二十ヶ町（東加納町）が3,404人、加納六ヶ町（西加納町）1,580人、下加納村、376人、合計で5,360人と回復し、更に増加しています（『加納町史』）。

さて、城下町起源の近代都市では、官庁や学校、旧軍などの新しい公共施設が城の周辺に置かれます。しかし、岐阜町の側には、奉行所跡地の一部は小学校用地に、信長時代の居館周辺にあたる古屋敷(空地であった)は岐阜公園となりました。上加納には金津遊廓が開発されて、その後の柳ヶ瀬につながっていきます。

他方、加納小学校の他にも、師範学校、女子師範、農林学校、岐阜第二中学校などの教育施設が加納には集中的に立地していて、こうした公共施設の立地が二つの町に分化したのも独特です(15-16ページ)。

戦前では東京などの六大都市を別としても、県都となった岐阜市の成長は、繊維産業の発展によって目覚ましいものでした。上水道、下水道(これは全国で五番目)や道路網、長良、長森、本荘などの周辺農村の耕地整理を通じた市街地化と合併、そして市内電車の発達は、全国的に見ても先進的だったといっても過言ではありません。加納町でも、西南に広がる加納町耕地整理組合に続いて、加納城南、加納第一、大手前の各区画整理組合が事業を完成させて、ほぼ現在の都市基盤の骨格となっています。昭和20年の岐阜空襲を受けた後も、被災した範囲では戦災復興都市計画事業が行なわれました。



◆加納の人口の成長と減少

近代以降の加納の人口について続いてみていくと、最初の国勢調査(大正9(1920)年)で10,082人、岐阜市と合併した昭和15(1940)年には20,043人へと倍増しています。終戦直後の1947年の数値は見つかりませんが、疎開と空襲による戦災のために、一時的に減少したはずです。

加納の経済を支えていた和傘産業は1950年頃にピークを迎えて、その後は洋傘に置き換えられて衰退します。岐阜駅北口の闇市から出発したアパレル産業の一部や縫製工場が、加納側でも和傘に代わって増えてきます。

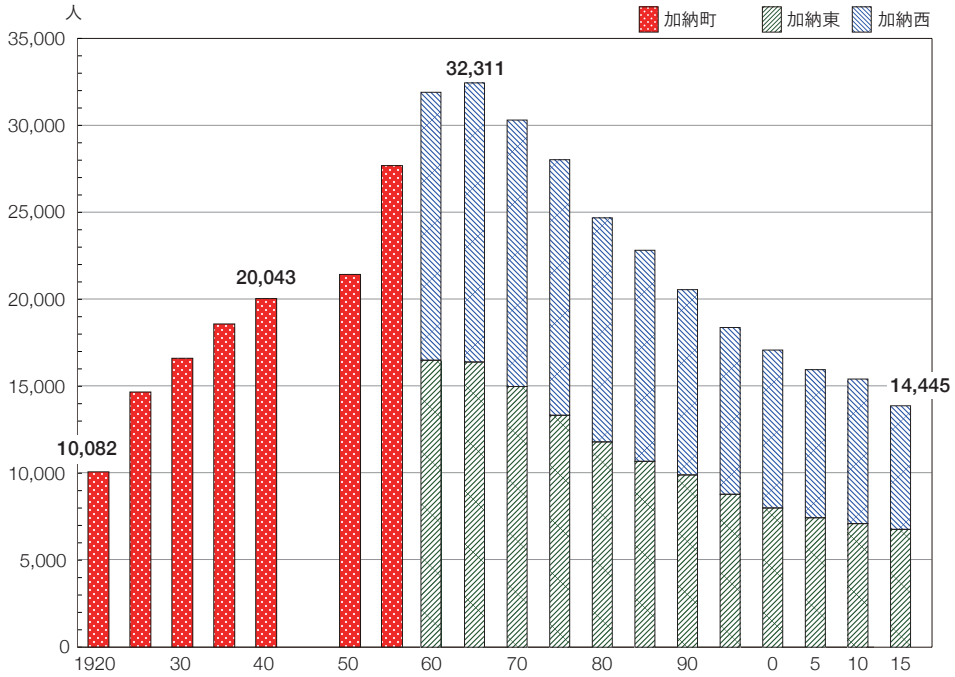
こうした復興を通じて人口は回復からさらに急増を示して、高度成長期に入ると加納東・西を合わせた人口は、ピークである1965年には32,311人に達しました。この規模は昭和と平成の大合併の市制施行の基準を上回るものです。

高度成長の後半になると、駅前、柳ケ瀬から金華にかけての北部市街地と同様に、加納でも人口流出による減少傾向が続きました。県庁や大学の移転、郊外ショッピングセンターの発展などが、中心市街地の空洞化を招いています。加納の周辺では、厚見、茜部、三里などが急増しています。2015年(国勢調査)では14,445人と、ピークからみると半減しました。

◆住みやすく、加納らしいまちづくり

前述のように戦前の加納町時代の耕地整理から戦災復興を通じて、道路網と市街地の骨格が造られていました。本格的なモータリゼーションの時代を迎えてみると、東西の新本町・上本町と城南通り、南北の加納中通り(旧東陸橋)、栄町通り、岐阜西通り(旧西陸橋)などの幹線路を除くと、ほとんどが道幅の狭い生活道路です。

県図書館で検索したら、1974年には早くも「街づくり二五年 加納西校下コミニティーの形成」が発行されていましたが、その主なテーマは交通事



資料：国勢調査　1947年は資料が欠如。2009年7月は岐阜市。

故対策でした。当時の対策は、今も外来者にとって迷路のように感じられる生活道路網の一方通行化などだったのでしょう。

2002年から「加納西みち再生協議会」に参加し、いろいろな論議があった末、狭く段差のあった歩道の改良（バリアフリー）、幹線との交差点におけるスムーズ歩道（兼進入車両に対するハンプとしての速度低下効果）、加納西小学校南のコミュニティ道路整備などが行われました。

岐阜市はさらに、加納まちづくり会や、この中山道加納宿文化保存会、両自治会とともに話し合って、中山道における歴史系案内板の設置や、地道風舗装への改修を行っています。

岐阜市の「総合計画 2008」策定の際に、岐阜大学との共同研究で行った市民アンケートによると、「子どもの通園・通学などの便利さ」の評価で加納東が地区別ではトップで、加納西でも「日常の買物の便利さ」などで良い評価を得ていました。教育・医療・公共施設なども充実していて、住みやすい環境であるといえるでしょう。高層マンションをめぐる問題もありましたが、近年、戸建ての住宅の新築も相次いでおり、市内で最も住宅地価が高いのが、駅南の栄町通りと中山道の交差点です。

戦災にあったために中山道の町並みは一部しか残っておらず、本丸などの加納城趾も未整備のままですが、日本で唯一、本格的な生産が残っている和傘などの大事な資産も持っています。

加納まちづくり会が景観形成市民団体の認定を受けた時（2005年）に、岐阜市長も「加納らしいまちづくりを」と述べられていました。住みやすく、歴史的な個性を活かしたまちづくりを進めていくことを期待しましょう。

（中山道加納宿文化保存会、会報第 54 号 ,2009 年より、一部加筆修正）

加納まちづくり会の活動から

facebook もぜひ ご覧下さい ▷ www.facebook.com/kanoumachizukuri

◆加納町と岐阜市の合併 70 周年記念　2010 / 2 / 11

「世界一の和傘」の下で

◆写真展
加納の四季を撮ろう
2011 / 6 / 3～15

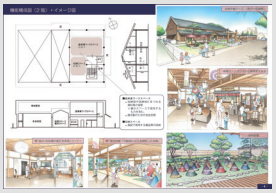
柳ヶ瀬あい愛ステーションにて

◆岐阜市民参画賞
2015 / 10 / 1

岐阜市民参画賞を頂きました

◆ありがとう 旧加納町役場　2015 / 12 / 30

跡地の利用計画が進んでいます。（右図は岐阜市まちづくり景観課より）



◆岐阜市歴史博物館　2016 / 6 / 25･26

毎年人気の和傘づくり教室です。

◆まちづくり会総会記念講演　2016/5

この年は久津輪雅先生（県立森林文化アカデミー）
和傘の「エゴノキプロジェクト」のご講演でした

◆長良川おんぱく　2016 / 10 / 2

「日本一の和傘と文教の町加納の昔を偲んで今を巡る」

加納の名店

A FAMOUS STORE OF KANOU

◆ 大正庵

地元に愛される釜揚げうどんの名店。名物はうどんと蕎麦が両方のっている「相のり」と「ごぼうの天ぷら」！

住　　所／岐阜市加納清水町 1-10
営業時間／ 11-21時
定 休 日／水曜

◆ カフェ・ド・グウテ

ランチがお得な居心地のよい喫茶店。気さくで明るい店主がお出迎え！

住　　所／岐阜市加納栄町通 2-14
営業時間／月－金：7-17時
土：7-15時
日：7-11時
定 休 日／第3日曜

◆ 日本泉酒造

岐阜を代表する酒蔵のひとつ。全国的にも珍しい地下にある酒蔵を見学してみるのはいかがですか？

住　　所／岐阜市加納清水町 3-8-2
営業時間／ 9-17時30分
定 休 日／日曜・祝日

◆ サカエパン

日々多くのファンが訪れる昔ながらのパン屋さん。思わずクスッとしてしまう愛着湧くネーミングにも注目です。

住　　所／岐阜市加納栄町通 1-9
営業時間／ 7-19時
定 休 日／不定休

◆ とんかつの松屋

どのメニューもお手頃でボリューム満点。サクッと揚がった特製タレのみそかつが絶品です！

住　　所／岐阜市松鴻町 2-14
営業時間／ 11-14時30分
17-20時
定 休 日／日曜・祝日

◆ 二文字屋

1620 年創業の加納宿の老舗。肉厚で贅沢なうなぎをご賞味ください！

住　　所／岐阜市加納本町 2-17
営業時間／11時30分-14時30分
17時-20時
定 休 日／月曜

◆ ほていや

加納で和食といえばここ！定食やお得なセットなど豊富なメニューが楽しめます。

住　　所／岐阜市加納長刀堀 1-1
営業時間／ 11-14時
17-21時
定 休 日／不定休

中山道加納宿 まちづくり 交流センター

旧加納町役場の場所に、2020年10月にオープン。
「加納の歴史・文化継承プロジェクト委員会」のクラウドファンディングによって、和傘や加納城の模型を展示している。
会議室の予約は交流センター受付（058-214-2341）

住　　所／岐阜市加納本町 1-16-1
開館時間／ 9-17時
休 館 日／月曜（月曜日が祝日の場合は翌平日）
年末年始（12月29 日～1月3日）

発刊にあたって

岐阜加納ロータリークラブは、昭和52年7月創立され、以後岐阜市とりわけ加納地区を主たる活動エリアとして各種の奉仕活動等に取り組んできましたが、本年度創立40周年を迎えました。

そこでクラブ創立40周年記念事業の一つとして、加納地区の歴史、伝統、文化等について取りまとめた「加納のまち」を編集発刊することを企画しました。

本誌の執筆は、岐阜大学教授の富樫幸一先生、郷土史家として数々の著作のある松尾一氏にお願いし、加納まちづくり会、加納西・東公民館、当クラブの担当委員等がサポートしました。本誌は、小学校の高学年・中高校生、一般市民を対象とし、加納地区の形成発展を紹介普及すると共に、郷土史研究上一定の文化的価値のある内容をも目指したものです。

松尾一氏は、「岐阜は名古屋の植民地!?」との本を執筆されましたが、本誌は、「加納地区は、岐阜の単なる一部ですか」と問うものです。更に加納地区のこれまでの成り立ちを解明する中で、今後数十年の加納地区の発展の方向性、私たちが守り育てるべきものは何か、を問うものです。

私共岐阜加納ロータリークラブは、本誌発刊にあたり、本誌が１人でも多くの市民や生徒の皆さんに読んでもらい、活用されることを願っています。

2018年5月
岐阜加納ロータリークラブ
会長　横山文夫

「加納のまち」発刊に寄せて

岐阜駅を南側に降りたつと、ところどころにビルを臨む住宅街が広がっています。ここが加納のまちです。

江戸時代には加納藩が置かれたこの街には旧中山道が通り、加納城跡が当時の面影を残しています。また、今もなお日本有数の和傘の産地でもあります。

加納まちづくり会は、加納の歴史・文化に目を向け、景観を考え、この地の活性化に役立てれば、と活動を続けて参りました。以前より、「加納の歴史・文化や今を知ってもらう何かを…」と考えておりましたが、この度、岐阜加納ロータリークラブ様より、協働で加納の冊子を創りませんか、とのお話をいただきました。そしてこの「加納のまち」が誕生しました。

この本が加納の昔に思いをはせ、今を見つめるとき、傍らに置かれる一冊であれば、と思っております。そして、加納の未来を考えるときの手引きの一冊となれば幸いです。

「加納のまち」発刊にあたり、声をかけてくださいました岐阜加納ロータリークラブの皆様に心より感謝申し上げますとともに、お力添えいただきました多くの方々に御礼申し上げます。

さあ、加納のまちの扉を一緒に開いていきましょう。

2018年5月

加納まちづくり会

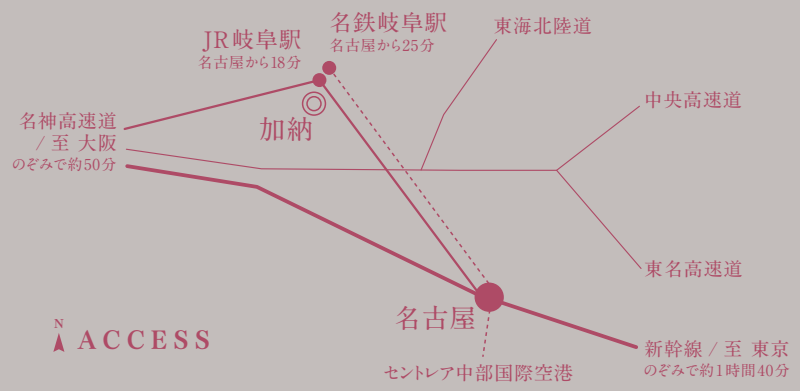
会長　水野律子

発　行
加納まちづくり会

協　力
岐阜加納ロータリークラブ
中山道加納宿まちづくり交流センター活用協議会

デザイン・取材協力
リトルクリエイティブセンター

2025年6月改訂

目 次

加納マップ / まちあるきのお薦めルート 1-2
加納の町の歴史はここから
家康の長女亀姫と長篠の戦いで活躍した信昌
加納城と加納宿 3-4
加納城 5-6
歴代加納藩主 7
中山道加納宿 8
加納マップ / 中山道加納宿 9-10
加納の年表 11
中世の加納と川手 12
明治の加納　鉄道が開通したころ 13-14
大正の加納　傘の町・文教の町 15-16
加納1920　大正時代の自然 遺構 / 人々のくらしの図 17-18
加納1920　加納の学校と加納天満宮 19-20
加納の百年 / 学校や施設など 21-22
加納の百年 / 加納の昔のアルバムより 23-24
和傘 25-28
加納マップ / お寺と神社 29-30
加納のお祭り 31-32
加納にあるちょっと見どころ 33-34
新・加納ものしり博士検定 / 問題 35-36
新・加納ものしり博士検定 / 正解と解説 37-38
都市構造からみた加納と、これからのまちづくり 39-42
加納まちづくり会の活動から 43
加納の名店 44
発刊にあたって / 岐阜加納ロータリークラブ 会長 横山文夫 45
「加納のまち」発行に寄せて / 加納まちづくり会 会長 水野律子 46